

社会の変化に対応した
新しい職業教育の在り方について

答 申

平成22年9月10日

滋賀県産業教育審議会

平成22年(2010年)9月10日

滋賀県教育委員会教育長 様

滋賀県産業教育審議会

会長 谷口 吉弘

社会の変化に対応した新しい職業教育の在り方について(答申)

本審議会は、平成21年7月27日に滋賀県教育委員会教育長から標記についての諮問を受け、平成22年3月26日に中間審議まとめを提出しました。その後も慎重に審議を重ね、別記のとおり結論を得ましたので、産業教育振興法第12条の規定に基づき答申します。

目 次

はじめに	1
1 本県高等学校における職業教育の現状と課題	
(1) 職業教育の現状と課題	2
(2) 各学科の現状と課題	4
2 社会の変化に対応した新しい職業教育の在り方について	
(1) 今後の職業教育における専門学科の教育内容について	8
(2) 勤労観・職業観の育成および社会人としての自立を導く 新しい職業教育の方向性について	11
おわりに	12
付録 第23期滋賀県産業教育審議会 委員名簿	13
第23期滋賀県産業教育審議会 審議経過	15
第23期滋賀県産業教育審議会 中間審議まとめ	17
諮問書	19
県立高等学校職業学科 学科改編の状況	21

はじめに

今日、産業構造や就労構造などが大きく変化する中で、若者の価値観や人生観、職業に対する意識の多様化、フリーターや若年無業者の増加、新卒者の早期離職問題の顕在化などが大きな課題となっており、学校から社会・職業への円滑な移行に向けた対応が求められています。こうした中で、平成20年7月に策定された国の「教育振興基本計画」において「キャリア教育・職業教育の推進」が重点事項とされ、平成21年3月に告示された「高等学校の新しい学習指導要領」において、職業人としての規範意識や倫理観等の育成を重視する観点から、職業に関する教科・科目等に関する改善が図られています。

国の計画を踏まえて平成21年7月に策定された「滋賀県教育振興基本計画」において、「勤労観・職業観を養い、社会での自立を目指す教育の推進」が今後重点的に取り組むための施策とされたことから、生徒が望ましい勤労観・職業観を身につけ、社会での自立を目指すための新しい職業教育や職業に関する学科の在り方を十分に検討する必要があります。

一方、昨今の普通科志向の高まり、職業学科から上級学校への進学率の上昇など、本県における職業教育を取り巻く環境は大きく変化しています。あわせて、今後地域によっては生徒数の大幅な減少が予測されることや、本県財政の危機的な状況などもあり、平成21年3月の「県立学校のあり方検討委員会」の「報告」において、本県における生徒や産業界からのニーズ、県の産業振興の方針を見極めながら、学校・学科の再編による集約化を図り、既存の施設・設備の効率的な活用や集中的な投資をすることなどにより、より専門性を維持・向上できるよう、新しい職業教育の枠組みを検討する必要があると提言されました。

このような状況の中、平成21年7月27日に滋賀県教育委員会より「社会の変化に対応した新しい職業教育の在り方について」の諮問を受け、審議を重ねてきたところです。このたび、諮問事項について審議結果をとりまとめましたので、答申とします。

1 本県高等学校における職業教育の現状と課題

(1) 職業教育の現状と課題

近年、新しい知識・情報・技術が社会のあらゆる分野で活動の基盤となる知識基盤社会の進展、経済のグローバル化等による国際競争の激化、経済・雇用構造の変化や、少子高齢化の進展等の中で、人々が安心して暮らせる社会の実現が急務となっています。社会環境の変化に対応するため、求められる知識や技能を育成するよう、高等学校や大学・短大・専門学校等においては、学科や学部の改編や転換などが行われているものの、学校教育における教育内容と社会が必要とする知識や技能との乖離が指摘されるようになってきています。また、産業界からは、勤労観・職業観の育成はもとより、基礎的・基本的な学力をつけるための教育内容の充実や、技術革新にふさわしい施設・設備を含めた教育環境の充実を求める意見があります。

学校教育段階で重要なのは、職業教育における基礎的・基本的な知識・技能の習得はもとより、社会人として必要な教養とマナー、コミュニケーション能力、課題解決能力、自己学習力など、職業生活に適応し、着実に成長していけるような実践性の基盤となる能力や職業人としての倫理観、遵法精神を確実に身につけさせることであると考えられます。

本県における中学生の高等学校への志望状況については、毎年9月に実施している第1次志望調査によると、近年、職業学科の志望倍率は普通科の志望倍率に比べて低い状況にあります。

県立高等学校の職業学科の就職希望率は、平成22年3月卒業生については48.4%で、平成12年3月卒業生以降現在まで50%前後で推移しています。また、県立高等学校の普通科の就職希望率は、平成22年3月卒業生で8.9%でした。就職決定率は、職業学科の93.4%に対し普通科が88.5%でした。

一方、平成22年3月卒業生の大学・短大・専門学校等への進学率は、県立高等学校職業学科で46.6%であり、普通科では86.7%でした。ここ10年間の推移を見ますと、普通科に比べ職業学科の方が、大学・短大・専門学校等への進学率の伸びが大きい傾向があります。

産業や社会の激しい変化の中で、現行の学科の在り方が、中学校卒業予定者の志望状況や高等学校卒業後の進路状況などに必ずしも適合していないという現状への対応をはじめ、各学科における教育内容の質的充実、施設・設備を含めた教育環境の整備が求められていることから、従来の職業学科の在り方や教育内容の見直しを検討することが必要です。

また、上級学校へ進学する生徒が増加していることを受けて、高等教育機関への接続も視野に入れ、将来の専門的職業人の育成につながる教育内容の工夫について検討することも必要です。

定時制課程については、社会情勢の変化等により、様々な学習動機や学習歴を有する生徒が増える傾向にあることから、定時制職業学科に対するニーズがあるかどうかという観点も踏まえたうえで、職業学科としての必要性も含めた定時制課程の在り方についての検討が望まれる状況にあります。

以上のような現状と課題を踏まえ、職業学科として、滋賀県の産業界に貢献する人材育成にどのように取り組むかという面と、高等教育機関への接続教育をどのように行うかという面の両面を勘案しながら、社会の変化に対応した新しい職業教育を実現するため、学科の再編や学科の教育内容の改善について工夫していく必要があると考えます。

(2)各学科の現状と課題

農業学科

農業学科は、全日制課程の単独校が3校あり、生産系、食品系、環境系を中心に合計11の小学科が置かれ、すべて1小学科1学級の編制となっています。

中学校卒業予定者の第1次志望調査では、農業学科への進学希望者は、比較的低い倍率となっており、その要因として学科の名称や学習内容が分かりにくいということが考えられます。

近年、国内の食糧自給率の低下や食の安全性問題などを受け、農業関連産業に期待するところは大きくなっています。農業学科においては、これまで、安全な食料の生産や供給、地域環境を考えた保全活動、および、動植物や地域資源を活用した取組みを、地域の関係団体等と連携を密にしながら、実験や実習に重きを置いて進めてきました。こうした中で、本来の農業教育の意義を活かし、関連産業でのインターンシップ等を通して勤労観・職業観が養われ、産業界から高い評価を得ています。

一方、農業学科全体の6～7割の生徒が就職を希望していますが、本県の産業構造上、農業関連の求人が少なく、卒業後に農業関連分野へ就職をする生徒の割合が低い状況にあることは課題であり、県内における農業や関連産業の状況を踏まえたうえで学科の構成や内容についての改善を行うよう求める意見があります。

工業学科

工業学科は、全日制課程の単独校が3校および併置校が1校、定時制課程の単独校が1校および全日制課程との併置校が1校あります。小学科は、機械系、電気系、化学系、建築系、土木系、および、情報系の構成となっており、他に、地域の産業に根ざした特色ある小学科としてセラミック科、デザイン科が設置されています。

中学校卒業予定者の第1次志望調査によると、機械系の倍率が比較的高い状況にあり、学ぶ対象が目に見えやすいことから、中学生が学科の内容をイメージしやすいと思われます。

工業学科においては、技術革新に対応して実習に先端的な内容を導入し、環境やエネルギー問題に対応して科目内容を改善してきたことをはじめ、それぞれの分野でマルチメディアや高度情報通信技術に適應できるよう科目内容の充実を図るとともに、地域の街づく

りに貢献する取組みを進めてきました。

県内の製造業では、高度経済成長を支えた人材の退職に伴う若手技術者の育成人材低下が喫緊の課題であり、工業高校に対して、電気、機械、建設、化学などに関する総合的な知識や技能の基本を身につけたうえで、多様な工業分野において活躍できる適応範囲の広い人材育成が求められています。

就職希望の生徒は、ほぼ全員が進路を確保しており、企業からの評価も高いものがあります。一方、高等学校で学んだことをさらに深め、より高い知識や技能を身につけるために上級学校へ進学する生徒も半数程度を占めています。

商業学科

商業学科は、全日制課程の単独校が2校、定時制課程で全日制総合学科との併置校が1校あり、小学科としては、商業科、情報処理科、国際経済科、総合ビジネス科、情報システム科の5科が設置されています。

中学校卒業予定者の商業学科に対する進学希望者は、商業に関する資格を取得し、その資格を生かした就職や上級学校への進学を考えて入学を希望する者が多く、学校間や小学科間あるいは年度により多少の差はあるものの、相応の人数で推移しています。

商業学科のそれぞれの小学科においては、選択科目の設定あるいは類型制の導入などにより、生徒の興味や関心に応じて専門性の深化を図り、就職だけではなく、四年制大学への進学や高度な資格取得にも対応できる教育課程を編成しています。

近年、経済の国際化や、経済社会の中で第三次産業の割合が相対的に拡大する経済のサービス化の進展、また、情報通信技術の進歩など、経済社会を取り巻く環境が大きく変化している状況にあります。このような中で、ビジネスの諸活動を主体的・合理的に進めるための実践的な力や、地域産業の振興などを導く起業家精神を身につけ、経済社会の健全で持続的な発展を担う人材の育成が求められています。

高等学校卒業後の進路として、就職を希望する生徒は3～4割程度あり、希望している生徒のほぼ全員が就職しています。また、進学希望者のうち半数以上は、専門性を高めるために、商業関連分野の上級学校へ進学しています。

家庭学科

家庭学科は、全日制課程の2校にそれぞれ普通科と併置されており、例えば、食物調理、デザイン情報等の類型を取り入れるなど、多様な教育活動を展開しています。

家庭学科においては、中学校卒業予定者に家庭学科を志望する者が相応にあり、高等学校入学時から専門的な学びへの目的意識の高い生徒が多い状況にあります。

少子高齢社会の進展やライフスタイルの多様化、食育の推進を求める社会の要請などに対応し、衣食住、ヒューマンサービスなどにかかわる生活産業の各分野で職業人として必要とされる資質や実践力を育てることが求められています。

高等学校卒業後の家庭学科関連産業への就職に加え、関連産業に係る資格取得の必要性から、上級学校に進学しさらに専門性を深めることを目指す傾向があります。

福祉学科

福祉学科は、全日制課程の1校に普通科と併置されています。

福祉学科においては、中学校卒業予定者に福祉学科を志望する者が相応にあり、福祉学科を希望し入学してくる生徒の専門的な学習に対する目的意識は高く、また、社会においても、福祉、介護分野の専門性を有する人材へのニーズは高い状況にあります。介護福祉士養成制度が変更されたことを受け、平成21年度から介護福祉士養成課程設置校として施設実習の増加を含めた新しい教育課程に改編しました。

少子高齢社会の進展に伴い、地域における自立生活支援への志向や福祉ニーズの多様化など社会福祉に対する国民の意識は変化しており、このことに対応し、多様で質の高い福祉サービスを提供できる人材を育成することが求められています。

上級学校への進学者は7～8割にも達し、上級学校卒業後においてもほとんどの者が福祉関連分野に就職している状況にあります。

総合学科

総合学科は、全日制課程の6校に設置され、うち1校は普通科と併置されています。農業、工業、商業、家庭、福祉等の職業系の系列などがあり、それぞれの学校において教育資源を活用しながら、特色ある教育がなされています。

中学校卒業予定者の総合学科に対する進学希望者は、他の職業系専門学科と比べると安定して比較的高い倍率で推移しています。

それぞれの生徒が自己の将来を見つめ、興味や関心に応じて多様な科目の中から適切な科目を選択し、進路の実現を図ることができるよう、教育課程が編成されています。

総合学科においては、生徒数などで一定以上の学校の規模があれば、多様な選択科目や教育内容を提供することが可能です。しかしながら、今後中学校卒業予定者の減少が予測される中においては、学校規模が縮小し、多様な選択科目や学校活力を維持することが困難となることが懸念されます。

定時制職業学科

定時制課程の職業学科は、3校に工業学科と商業学科が設置されていますが、現状においては、定員未充足の学校もあります。

定時制課程については、社会情勢の変化等により、様々な学習動機や学習歴を有する生徒が増える傾向にあります。中学校卒業予定者の進路志望状況や高等学校における学び直しの機能等の観点から考えると、必ずしも職業学科である必要はないということも考えられます。

2 社会の変化に対応した新しい職業教育の在り方について

(1) 今後の職業教育における専門学科の教育内容について

職業教育においては、実験・実習等の体験的な学習の場が豊富で、これらの教育活動を通じて専門的知識・技能を身につけさせることはもとより、忍耐力や自信などを育てることができます。このことは、職業学科が持つ大きな特色であり、また、優位性であると考えられます。この部分をどのように活かし、産業界と連携しながら社会に役立つ人材をいかに育成できるかが、今問われています。

知識や技能の高度化に伴い、社会や企業からは、基礎的・基本的な学力の確実な習得、自己学習力や自らのキャリア形成を計画・実行できる力の育成を求める傾向が強まっています。

職業学科の小学科の在り方を検討するとともに、職業学科における生徒の卒業後の進路状況に鑑み、高等学校で完結し卒業後すぐに就く職業に結びつけるための教育をより確かなものとしていく必要があります。同時に、さらに高度な知識・技能を身につけ将来の専門的職業人として活躍できる人材の育成を目指す、高等教育機関へ接続するための教育についてもしっかりと整えることが求められています。教育環境の改善を図りつつ職業学科の教育システムをより充実していくための検討が必要であると考えます。また、現状では細分化されすぎている小学科を整理・統合し、学習内容を理解しやすい名称とするとともに、既存の施設・設備の効率的な活用や集中的な投資を行うことも視野に入れ、それぞれの小学科への志望状況を勘案しつつ、学校間での小学科の再編や複数の小学科をまとめて募集することなど、多様な観点から検討していくことも必要と考えられます。

さらに、社会の変化に対応する職業学科における学びについて検討する必要があり、従来の学科の枠を超えた学科間の連携の在り方として、例えば、工業学科と農業学科における土木系科目や、農業学科と家庭学科における食品系科目での共通性を利用した連携、農業学科と商業学科での商品の共同開発や販売の連携なども考えられ、教育活動の横のつながりを意識した職業教育の枠組みについても工夫していくことが望まれます。

農業学科

農業学科では、持続的かつ安定的な農業や社会の発展を図る基礎的な能力と実践的な態度を育むという本来の農業教育の意義を十分に認識し、本県農業を担う有為な人材を育成するという観点が重要であり、農業を学ぶ意欲にあふれた生徒集団による学習が可能となる方向での検討が必要と考えます。

また、農業体験がもたらす教育効果は非常に大きいものがあり、忍耐強さや勤勉さなど、人間が働く上で基本的なことを学ぶ場としても農業教育は重要です。しかし、卒業後に農業関連分野へ就職する生徒の割合が低い状況にあることは課題であることから、今後は、本県の産業構造における農業の位置づけを踏まえたうえで、農業教育の在り方や学科の枠組み等についての検討をする必要があります。

工業学科

工業学科では、本県の産業界に貢献する人材育成のため、学科の在り方に関して幅広く検討することが望まれます。

また、学校間での小学科の再編を視野に入れるとともに、小学科を大きく機械系、電気系、建設系、化学系の4本柱でまとめることや、上級学校へ進学をする生徒が増加している傾向を受け、高等教育機関への接続を視野に入れた、教育課程をはじめとした教育内容の工夫をすることが必要と考えます。

商業学科

商業学科では、産業・社会構造の変化の中で、中学校卒業予定者の進路志望状況、人材の育成に係る企業の要求、高等学校卒業後の進路状況として上級学校への進学志願者が増加していることなどに対応していくよう、複数の小学科をまとめて募集することや、高等教育機関への接続を視野に入れた、教育課程をはじめとした教育内容の工夫をすることが望まれます。

家庭学科

家庭学科では、高等教育機関への接続を視野に入れた、将来の専門的職業人の育成につながる、教育課程をはじめとした教育内容の工夫をする必要があります。一方、家庭学科卒業後に、学んだ知識や技術が活用できるよう、インターンシップ等による体験学習の一層の充実を図る必要があります。

今後は、各校の実情や課題に応じた学科の在り方についての検討が必要と考えます。

福祉学科

福祉学科では、介護福祉士養成課程設置校としての教育活動のさらなる充実を図ることが望まれます。

また、上級学校への進学率が高く、上級学校卒業後においてもほとんどの者が福祉関連分野に就職している状況や、社会における福祉分野に関するニーズが高まることを勘案すると、今後も、教育課程をはじめとした教育内容の充実を図るための工夫が必要と考えます。

総合学科

総合学科の職業系の各系列については、地域におけるニーズや、県下全体の職業学科の規模や配置などを見据えながら、系列の見直しも含めた学科の在り方や教育内容を検討することが必要であり、また、系列の名称も中学生や保護者から理解されやすいものとなるよう改善の必要があると考えます。

定時制職業学科

定時制の職業学科に関しては、社会の変化や中学校卒業予定者の進路志望状況、高等学校卒業後の進路状況などを踏まえ、職業学科としての必要性があるかどうかという観点も視野に入れながら、今後の在り方について改善の方向で検討することが必要と考えます。

(2) 勤労観・職業観の育成および社会人としての自立を導く新しい職業教育の方向性について

専門的な知識・技能の習得は、生涯にわたって継続して育成される必要があることから、学校教育で行う職業教育においては、専門分野の基礎的・基本的な知識・技能を定着させるとともに、それらを活用する能力や仕事に向かう意欲、態度などを育成することが必要です。このため、地域や学校の実態、生徒の特性や進路等を考慮し、地域や広く社会との連携を図り、体験的な学習や企業での実習などを通じて、実践的な教育活動を積極的に実施することが必要です。

本県の職業学科においては、普通科に比べてインターンシップは非常に高い実施状況にあります。今後も、実験・実習等の体験的な学習の場が豊富にあるという職業学科の特色を活かし、長期間の職場派遣実習などを含めたインターンシップの取組みや体験的な学習などを充実させることで、職業人としての自己学習能力や社会の中で自らのキャリア形成を計画・実行できる力を今以上に育成することができると考えられます。

職業教育は、専門的な知識・技能や能力を育成し、社会的責任を担う職業人としての規範意識や倫理観を醸成し、豊かな人間性の涵養にも配慮する教育により、職業に円滑に移行する準備を行うという面とともに、新たな職業や高等教育機関への進学を意識し、専門的な知識・技能の高度化に対応した教育により将来の可能性を広げていくという面からも、その充実を図ることが重要です。今後の職業の多様化に備え、高等学校卒業後に予想される自らの進路の状況に限ることなく、将来に渡って職業人として必要とされる専門的な知識・技能の高度化に対応できる力を一人ひとりの生徒に育成することが求められています。

職業教育の充実のためには、外部の教育資源の積極的な活用を図ることも重要です。指導力の向上を目指し企業等へ教員を派遣したり、最新で高度な技術・技能を有する人材を学校に招いて講習会を実施するなど、職業教育に関する教員の研修の機会を充実していくことが必要です。また、現役の技術者に加え、退職した熟練の技術・技能を有した人材を招いて、生徒に対して技術指導を実施するなどの工夫が必要と考えられます。

おわりに

本審議会は、平成21年7月の審議開始以来、約1年間全9回に渡り諮問事項について審議を重ね、本県における今後の社会の変化に対応した新しい職業学科の在り方や職業教育の内容に関する審議内容を、答申としてまとめました。

平成21年3月に告示された「高等学校の新しい学習指導要領」では、職業に関する各教科において、専門分野の基礎的・基本的な知識・技能を定着させる観点から科目構成の見直しや内容の改善が図られています。各高等学校においては、新しい学習指導要領の趣旨を踏まえ、各教科・科目において、いわゆる座学と実験・実習の有機的な連携を推進し、基礎的・基本的な知識・技能の一層の定着を図るとともに、課題研究等の実践を通して、問題解決能力や自発的・創造的な学習態度の育成に努めることが求められています。

職業教育は、時代に対応した職業に関する知識の習得を図り、技術の高度化に対応した技能教育を行うことにより、職業の専門的な知識・技能、能力や態度を育成し、自己の将来の可能性を広げていくことができることから、その重要性は高いと考えられます。今後は、滋賀県の産業振興の担い手の養成として、職業教育の一層の充実が求められますが、その際、社会的・職業的に自立するための基礎・基本となる能力や態度を育てるとともに、生徒一人ひとりが目標に向かって努力し続け、人生をよりよく築こうとする意識を高める教育的視点も必要です。

今後も、各高等学校において職業教育における教育内容の改善、工夫の取組みがなされ、職業教育の一層の活性化が図られることを期待します。

付 録

第23期滋賀県産業教育審議会 委員名簿 平成21年7月27日～

区 分	氏名(敬称略)	職 名 等	備 考
学識経験者等	たにくち よしひろ 谷 口 吉 弘	立命館大学生命科学部教授	会長
	ますだ よしあき 増 田 佳 昭	滋賀県立大学環境科学部教授	副会長
	はやかわ ふみこ 早 川 史 子	相愛大学人間発達学部教授	
産 業 界	いそだ たかお 磯 田 隆 雄	湖国精工株式会社 代表取締役社長	
	やぎ さちこ 八 木 幸 子	株式会社比叡ゆば本舗ゆば八 代表取締役社長	
	かけひ いさお 筧 勲	タキイ種苗株式会社 研究農場総務課長	
学 校 関 係 者	しげ た さだのり 重 田 定 敬	滋賀県立八日市南高等学校長	
	ひろ たに あきら 廣 谷 明	滋賀県立彦根工業高等学校長	
	た か だ りえこ 高 田 利江子	野洲市立野洲北中学校長	
行 政 関 係 者	にしはら せつこ 西 原 節 子	滋賀県県民文化生活部管理監 (男女共同参画課長事務取扱)	

区 分	氏名(敬称略)	職 名 等	備 考
専 門 委 員	ひきだ かつし 疋 田 勝 司	滋賀県立大津商業高等学校長	
	やまなか みゆき 山 仲 幸	滋賀県立水口東高等学校教頭	

付 録

第23期滋賀県産業教育審議会 委員名簿 平成22年 6 月 2 日 ~

区 分	氏名(敬称略)	職 名 等	備 考
学識経験者等	たにくち よしひろ 谷 口 吉 弘	立命館大学生命科学部教授	会長
	ますだ よしあき 増 田 佳 昭	滋賀県立大学環境科学部教授	副会長
	はやかわ ふみこ 早 川 史 子	相愛大学人間発達学部教授	
産 業 界	いそだ たかお 磯 田 隆 雄	湖国精工株式会社 代表取締役社長	
	やぎ さちこ 八 木 幸 子	株式会社比叡ゆば本舗ゆば八 代表取締役社長	
	かけひ いさお 筧 勲	タキイ種苗株式会社 研究農場総務課長	
学 校 関 係 者	しげた さだのり 重 田 定 敬	滋賀県立八日市南高等学校長	
	ひろたに あきら 廣 谷 明	滋賀県立彦根工業高等学校長	
	たちき じゅんこ 立 木 純 子	米原市立柏原中学校長	
行 政 関 係 者	いしかわ みちこ 石 河 美千子	滋賀県立男女共同参画センター所長	

区 分	氏名(敬称略)	職 名 等	備 考
専 門 委 員	おおとも じゅんいち 大 伴 純 一	滋賀労働局職業安定部職業安定課長	

付 録

第23期滋賀県産業教育審議会

審議経過

会議	開催期日	場所	審議内容等
第 1 回	平成21年 7月27日(月) 14:00~17:00	滋賀県庁 本館2階 第3委員会室	・委員委嘱、会長・副会長の選出 ・諮問および理由説明 ・審議の進め方、専門委員について
第 2 回	平成21年 9月2日(水) 9:30~12:00	コラボしが21 3階 中会議室2	・工業・商業学科の現状と課題について ・工業・商業学科の方向性について ・定時制職業学科の現状について
第 3 回	平成21年 10月28日(水) 9:30~12:00	大津合同庁舎 7階 7C会議室	・農業・家庭・福祉学科の現状と課題について ・農業・家庭・福祉学科の方向性について
第 4 回	平成21年 12月17日(木) 13:30~16:00	大津合同庁舎 5階 5E会議室	・工業・商業学科の在り方について ・定時制職業学科の方向性について
第 5 回	平成22年 3月18日(木) 13:30~15:00	大津合同庁舎 5階 5E会議室	・中間審議まとめについて
中間 報告	平成22年 3月26日(金)	県庁新館4階 教育長室	・中間審議まとめ

第 6 回	平成22年 6月2日(水) 9:30~12:00	大津合同庁舎 5階 5E会議室	・農業・家庭・福祉学科の在り方について ・勤労観・職業観の育成の現状について
第 7 回	平成22年 7月2日(金) 9:30~12:00	大津合同庁舎 5階 5E会議室	・勤労観・職業観の育成の課題と方向性について ・社会人としての自立を導く新しい職業教育の方向性について ・定時制職業学科の在り方について
第 8 回	平成22年 8月6日(金) 9:30~12:00	滋賀県庁 本館2階 第3委員会室	・審議総括 本県における望ましい勤労観・職業観の育成と、社会人としての自立を導く新しい職業教育の在り方について 本県における職業学科の在り方について
第 9 回	平成22年 9月3日(金) 13:30~15:00	大津合同庁舎 5階 5E会議室	・答申について
答 申	平成22年 9月10日(金)	県庁新館4階 教育長室	・答申

各学科の現状と課題、方向性および在り方を審議する際は、総合学科の同系統の系列についても審議を行った。

中間審議まとめ

社会の変化に対応した新しい職業教育の在り方について

本県県立高等学校の職業学科ならびに総合学科の職業系列においては、従来から、その時々を生徒や社会のニーズに応え、様々な産業の担い手として活躍する人材を育成し、県内外の産業経済の発展に寄与するため、職業教育の充実が図られてきたところです。また、実験・実習等の体験的な学習を重視し、企業・事業所等との連携を密にすることにより、実際のものづくりの現場におけるインターンシップなどの取組みを充実させることで、望ましい勤労観・職業観の育成や高度な知識・技術の実践的な習得が可能となるよう、教育活動が展開されてきました。

近年の県立高校を取り巻く環境の大きな変化を受け、今後予測される長期的な生徒数の減少傾向、生徒の学習ニーズと学科構成の乖離、本県財政の厳しい状況などに対応するため、平成20年度に「県立学校のあり方検討委員会」が開催され、平成21年3月にはその「報告」がなされました。「報告」では、職業学科の今後のあり方については、検討委員会の報告内容を基に、滋賀県産業教育審議会に諮り、さらに詳細な審議を依頼し、その意見を踏まえる必要があることが提言されました。

これを受けて、平成21年7月27日に滋賀県教育委員会より「社会の変化に対応した新しい職業教育の在り方について」の諮問を受け、第23期滋賀県産業教育審議会を開催して、審議を重ねてきたところです。

これまでの5回の審議においては、本審議会委員だけでなく、専門委員を招聘してその意見を聴取するなど、多角的な視点から審議を行い、本県における職業学科の現状と課題、生徒の志望状況、産業界からのニーズ、県の産業振興の方針、本県の経済状況等に関する資料を基に、今後の本県における社会の変化に対応した新しい職業教育の在り方について検討をしてきました。

その中では、産業構造や就労構造などが大きく変化する中において、産業界の求める人材を育成するための職業教育を推進するとともに、施設・設備を含めた教育環境を充実させていく必要があること、職業学科から上級学校への進学者が増加する中で、上級学校への接続教育を意識した教育内容を工夫する必要があること等の意見が多く出されました。

このたび、本審議会における5回の審議の中で出された主な意見について取りまとめましたので、「中間審議まとめ」としてここに報告します。

今後、当審議会では、生徒が望ましい勤労観・職業観を身につけ、社会での自立を目指すための新しい職業教育や学科の在り方をさらに検討することに加え、実験・実習等の体験的な学習の場が豊富にあるといった職業学科の優位性を今以上に活かすという観点から、職業教育の具体的な内容の見直しを図るとともに、地域や学校の状況、生徒の実態を踏まえながら、発達段階に応じたキャリア教育・職業教育の在り方に関して、さらに審議を深めていきたいと考えております。

本県における今後の職業学科の方向性について

- (1) 産業や社会の激しい変化の中で、現行の学科の在り方が中学校卒業予定者の志望状況や高校卒業後の進路状況などに必ずしも合っていない現状への対応、各学科における教育内容の質的充実、施設・設備を含めた教育環境の整備が求められているため、従来の職業学科の在り方ならびに教育内容の見直しを検討することが望まれます。
- (2) 現状では細分化されすぎている小学科を整理・統合し、学習内容が理解しやすい名称とするとともに、既存の施設・設備の効率的な活用や集中的な投資を行うことも視野に入れ、各小学科の志望状況を勘案しつつ、学校間での小学科の再編や複数の小学科をまとめて募集することなど、幅広い観点から検討していくことが望まれます。なお、学科によっては、小学科を改善するための早急な対応が望まれます。
- (3) 上級学校へ進学する生徒が増加している傾向を受けて、高等教育機関への接続も視野に入れ、将来の専門的職業人の育成につながる教育内容の工夫について検討することが望まれます。
- (4) 総合学科の職業系の各系列については、地域におけるニーズや、県下全体の職業学科の規模や配置などを見据えながら、各校の系列の見直しも含め今後の在り方を検討していくことが望まれます。
- (5) 定時制課程については、社会情勢の変化等により、様々な学習動機や学習歴を持つ生徒が増える傾向にあります。定時制職業学科の今後の在り方については、職業学科としてのニーズがあるかどうか等の観点も踏まえ、学科の必要性も含めた定時制課程の在り方についての検討をすることが望まれます。

付 録

(諮 問 書)

平成 2 1 年 7 月 2 7 日

滋賀県産業教育審議会 様

滋賀県教育委員会

産業教育振興法（昭和 2 6 年法律第 2 2 8 号）第 1 2 条の規定に基づき、次の事項について、別記の理由書を添えて諮問します。

社会の変化に対応した新しい職業教育の在り方について

理 由 書

本県では、従来からその時々々の生徒や社会のニーズに応え、様々な産業の担い手として活躍する人材を育成し、県内はもとより我が国の産業経済の発展に寄与するため、県産業教育審議会の答申を踏まえ、職業教育の充実に向け取り組んでまいりました。

しかしながら、21世紀に入り、産業構造や就労構造などが大きく変化する中で、若者の価値観や人生観、職業に対する意識等が多様化し、全国的にフリーターや若年無業者、新卒者の早期離職の問題が顕在化してきており、学校から社会・職業への円滑な移行に向けた対応が課題となっています。そのため、昨年7月に閣議決定された政府の教育振興基本計画においては「キャリア教育・職業教育の推進」が重点事項とされたところです。また、今年3月に告示された高等学校の新しい学習指導要領においても、職業人としての規範意識や倫理観等を育成する観点から、職業に関する教科・科目の改善が図られております。こうしたことから、本県においても、望ましい勤労観や職業観を育成し、社会での自立をめざす新しい職業教育の方向性について検討する必要があると考えます。

また、本県では、生徒数の減少が予測されるとともに、普通科志向の高まり、職業学科からの進学率の上昇、危機的な財政状況など、職業教育を取り巻く環境が大きく変化しており、平成20年度には「県立学校のあり方検討委員会」が設置され、合計6回にわたる審議を経て、本年3月に「報告」がなされました。

この「報告」では、「職業学科の今後のあり方については、本検討委員会の報告内容を基に、滋賀県産業教育審議会に諮り、さらに詳細な審議を依頼し、その意見を踏まえる必要があると考えます。」とされており、生徒や産業界のニーズ、県の産業振興の方針をしっかりと見極めながら、学校・学科の統廃合による集約化を図り、既存の施設・設備の効率的な活用や、集中的な投資などにより、専門性を維持向上できるよう、職業学科の新しい枠組み検討の必要性が提言されています。また、総合学科においても、職業系専門学科と同様の課題意識を持ちながら、学科の円滑な運営や専門性の維持向上に資する見直し検討が必要とされています。

この「報告」やこれまでの県産業教育審議会における答申を踏まえ、県教育委員会においても、本県高等学校を取り巻く環境の変化に対応できる新しい職業教育の枠組みを構築する必要があると考えます。

こうしたことから、次の事項について検討を行う必要があります。

審議事項

社会の変化に対応した新しい職業教育の在り方について

付 録

県立高等学校職業学科 学科改編の状況

年度	学校名	改編の状況
平成2年度	甲南	(農業科、林業科、生活科) 農林技術科
	八幡商業	国際経済科の設置
平成3年度	湖南農業	農業科 農業技術科、園芸科 園芸工学科
	長浜農業	農業技術科の設置、生活科 生活科学科
	八日市南	農業科 農業技術科、畜産科 食品流通科 農業土木科 緑地デザイン科
	伊香	農業科 農業技術科
	彦根商業	情報処理科の設置
	大津	家政科 家庭科学科
	彦根西	家政科 家庭科学科
	甲南	家政科 家庭科学科
	長浜北	家政科 家庭科学科
平成4年度	瀬田工業	情報電子科の設置
	彦根工業	設備システム科の設置、土木科 都市工学科
	彦根工業(定)	建築科の募集停止
	大津商業	国際経済科の設置、事務科の募集停止
	安曇川	情報処理科の設置
	長浜商工	繊維工業科 情報繊維科
平成5年度	伊香	農業学科(農業技術科、生活科)の募集停止
	八日市南	生活科の募集停止
	八幡工業	情報電子科の設置
平成6年度	湖南農業	生活科の募集停止
	長浜北	家庭科学科の募集停止
平成7年度	長浜	福祉学科の設置
平成9年度	国際情報	(商業学科、工業学科) 総合学科
平成10年度	彦根商業	商業学科 総合学科、彦根翔陽に校名変更
	長浜商工	(商業学科、工業学科) 総合学科、長浜北星に校名変更
平成12年度	安曇川	商業学科 総合学科
	長浜農業	農業経営科 生物活用科、農業技術科 ガーデン科 生活科学科 食品科学科、農業土木科 環境デザイン科
	彦根工業	工業化学科 環境化学科
	八幡工業	化学工業科 環境化学科
平成14年度	八幡	厚生学科の募集停止
平成15年度	大津商業	(商業科、国際経済科、情報処理科) (総合ビジネス科、 情報システム科)
平成16年度	日野	(普通科、商業学科) 総合学科
平成17年度	彦根工業	(建築科、設備システム科) 建築・設備科
平成19年度	甲南	(普通科、農業学科、工業学科、家庭学科) 総合学科
平成23年度	彦根工業	(建築・設備科、都市工学科) 建設科

社会の変化に対応した
福祉科教育の在り方について

答 申

平成24年 8月24日

滋賀県産業教育審議会

はじめに

第23期滋賀県産業教育審議会では、本県職業教育の振興の方向性を県立学校の将来像とあわせて審議し、平成22年9月に「社会の変化に対応した新しい職業教育の在り方について」の「答申」において、職業学科の小学科の在り方を検討すること、高等学校卒業後の就職に結びつけるための教育と、高等教育機関へ接続するための教育についてしっかりと整えることなどが提言されたところです。

「答申」では、福祉学科について、「介護福祉士養成課程設置校として、教育活動のさらなる充実を図ること」が期待されています。しかし、平成19年と平成23年の「社会福祉士及び介護福祉士法」改正により、福祉学科では、介護福祉士の国家試験の受験資格を得るために必要な高等学校における学習の時間数が大幅に増えました。

このような状況の中、平成24年7月31日に滋賀県教育委員会より「社会の変化に対応した福祉科教育の在り方について」の諮問を受け、審議を重ねてきたところです。このたび、諮問事項について審議結果をとりまとめましたので、答申とします。

1 本県高等学校における福祉科教育の現状と課題

高齢化が進む社会状況において、今後もさらなる介護人材の育成が必要となります。医療技術が高度化し、医療と介護の連携が求められる中、介護人材の育成に関わって必要とされる知識・技術もますます高度なものが求められています。

高等学校段階における介護福祉士養成には、国家試験の受験資格を得るために必要となる3年間の学習の時間数が、平成20年度入学生までは1,190時間でしたが、平成19年の社会福祉士及び介護福祉士法の改正によって、平成21年度入学生からは1,820時間となりました。さらに平成23年の法改正によって、たんの吸引等の「医療的ケア」の教育を行うことが必要となり、平成25年度入学生からは、1,855時間となります。また、指導する教員に関しても、教員免許の他に、医師や看護師等の資格を持っている者を配置しなければならなくなりました。

福祉学科の状況

本県においては、平成7年度に介護福祉士国家試験が受験可能な教育課程を置く福祉学科が長浜高等学校に設置され、平成21年度からは社会福祉士及び介護福祉士法に基づく「福祉系高等学校等」として指定されました。

長浜高等学校福祉学科では、介護福祉士の国家試験受験資格を取得するため、平成21年度入学生から、学習に必要な時間数が大幅に増加したことにより、夏季休業中等にも実習や授業を行っています。進路に関しては、高等教育機関への進学者は、学科全体で7～8割と、他の職業学科に比べて非常に高く、高等教育機関でさらに学びを深め、社会福祉士や看護師、理学療法士、保育士等の資格取得をめざしています。また、就職者は2～3割で、多くが福祉関連分野に就職しており、卒業後3年以内の離職者はほとんどいない状況です。

その他の福祉科教育

本県においては、平成16年度から、日野高等学校の総合学科に「福祉健康（ヒューマン）系列」が設置され、訪問介護員（ホームヘルパー）養成研修2級課程に対応した教育課程を編成しており、卒業後の進路に関しては、福祉分野への就職や、福祉・看護・医療・保育・幼児教育系の高等教育機関への進学をめざしています。平成19年度に、甲南高等学校の総合学科においては「福祉と保育系列」が設置され、保育や介護の基礎的な知識と技術を学んでいます。また、平成25年度からは、普通科の石部高等学校に「福祉健康コース」が設置されます。

2 社会の変化に対応した福祉科教育の在り方について

本県では、これまで、高等学校の福祉学科での学習により、介護福祉士の国家試験合格をめざすことを重視してきました。今後は、生徒の進路に合わせ、高等学校段階では、福祉に関する基礎的・基本的学習に重点を置き、高等教育機関へ進学して、さらに福祉に関する学習を深め、介護福祉士等の国家試験合格をめざすことを可能とするなど、教育課程について検討することが望まれます。

また、福祉学科における専門教科の科目の単位数の適切な設定についても検討する必要があります。福祉学科で、人格形成やコミュニケーション能力の育成を図りながら職業教育を進めるために、普通教科（共通教科）の科目と専門教科の科目の適切なバランスを考え、教育課程を検討することが望まれます。

今後は、総合学科における系列や、普通科におけるコースも視野に入れ、地域性を考慮しながら、県全体の福祉科教育の在り方について見直していく必要があります。

おわりに

本審議会では、福祉科教育について審議を進めてきました。その中で、人格形成やコミュニケーション能力育成の観点から、職業教育において、高等学校教育全体における、普通教科（共通教科）の科目と専門教科の科目のバランスを常に配慮していく姿勢が必要であることを再認識したところです。

日本社会は、今後、世界に類をみない高齢社会になることが予想されます。福祉人材を育成する教育は重要であり、本県においても、初等中等教育から高等教育に渡る福祉科教育のグランドデザインを描くことが求められます。

今後は、一人ひとりの命をかけがえのない尊い命として大切にす、本県の福祉の考え方に根ざした福祉科教育が展開されることを期待します。

【第24期滋賀県産業教育審議会 委員名簿】

区 分	氏名（敬称略）	職 名 等	備 考
学識経験者等	たにくち よしひろ 谷 口 吉 弘	平安女学院大学副学長	会長
	ますだ よしあき 増 田 佳 昭	滋賀県立大学環境科学部教授	副会長
	はやかわ ふみこ 早 川 史 子	滋賀県立大学名誉教授	
産 業 界	いそだ たかお 磯 田 隆 雄	湖国精工株式会社代表取締役社長	
	やぎ さちこ 八 木 幸 子	株式会社比叡ゆば本舗ゆば八代表取締役社長	
	うの まさのぶ 宇 野 正 信	社会福祉法人滋賀県社会福祉事業団 クリエートプラザ東近江マイルド五個荘所長	
学 校 関 係 者	みつみ しゅうへい 三 鼓 修 平	滋賀県立大津商業高等学校長	
	やまなか みゆき 山 仲 幸	滋賀県立能登川高等学校長	
	みずの やすえ 水 野 靖 枝	草津市立新堂中学校長	
行 政 関 係 者	おおおか のぶひろ 大 岡 紳 浩	滋賀県健康福祉部健康福祉政策課参事 （兼企画調整課参事）	

区 分	氏名（敬称略）	職 名 等	備 考
専 門 委 員	すぎさわ かずお 杉 澤 和 雄	滋賀県立長浜高等学校教頭	

【第24期滋賀県産業教育審議会 審議経過】

	開催日	審議経過
第1回	平成24年7月31日	委員委嘱、会長・副会長の選出 諮問および理由説明説明 介護人材の育成状況 県立高等学校福祉学科の状況について 今後の福祉科教育の在り方について
第2回	平成24年8月3日	福祉学科の現状と課題について 県内の福祉科教育の状況について 全国の状況について 今後の福祉科教育の在り方について
第3回	平成24年8月7日	答申について
答申	平成24年8月24日	教育長へ答申

平成 2 4 年 7 月 3 1 日

滋賀県産業教育審議会 様

滋賀県教育委員会

産業教育振興法（昭和 2 6 年法律第 2 2 8 号）第 1 2 条の規定に基づき、
次の事項について、別記の理由書を添えて諮問します。

社会の変化に対応した福祉科教育の在り方について

理 由 書

本県では、生徒や社会のニーズに応え、様々な産業の担い手として活躍する人材を育成し、県内はもとより我が国の産業経済の発展に寄与するため、県産業教育審議会の答申を踏まえ、職業教育の充実に向け取り組んでまいりました。

第23期滋賀県産業教育審議会では、「県立学校のあり方検討委員会」の「報告」を受け、平成21年7月から合計9回に渡り審議を重ね、本県における今後の社会の変化に対応した新しい職業学科の在り方や職業教育の在り方について、平成22年9月に「答申」がなされました。

そのなかで、福祉学科については、「多様で質の高い福祉サービスを提供できる人材を育成することが求められています。」と分析したうえで、「福祉学科では、介護福祉士養成課程設置校としての教育活動のさらなる充実を図ることが望まれます。」と方向性が示されています。

福祉に関わる人材の育成は重要であります。第23期滋賀県産業教育審議会の答申を受け、福祉学科の教育活動の充実が求められるなか、平成19年と平成23年の法改正により、介護福祉士試験の受験資格として必要な各科目の時間数が、1,190時間から1,820時間、さらには1,855時間に増えたことから、高等学校での介護福祉士養成の在り方を検討する必要が生じたものであります。

こうしたことから、次の事項について検討を行う必要があります。

審議事項

社会の変化に対応した福祉科教育の在り方について

魅力と活力ある県立高等学校づくりに向けて

～滋賀県立高等学校再編基本計画～

平成 24 年 12 月

滋賀県教育委員会

目 次

I	計画の策定にあたって	1
1	計画策定の背景と趣旨	1
2	基本計画の考え方	2
II	県立高等学校の現状と課題	3
1	社会の変化	3
2	生徒の進路希望や課題の多様化	3
(1)	生徒の多様化	3
(2)	生徒の志望や進路状況の変化	3
(3)	定時制・通信制課程の役割の変化	3
3	生徒数の推移と高等学校の規模の変化	4
(1)	中学校卒業（予定）者数の推移	4
(2)	生徒数の増減に伴う高等学校の規模の変化	4
4	教育環境の整備	4
III	魅力と活力ある県立高等学校づくりに向けて	5
1	魅力と活力ある県立高等学校づくりに向けて	5
2	県立高等学校再編の基本的な考え方	6
(1)	教育における不易の取組	6
(2)	魅力ある学校づくりの推進	6
(3)	活力ある学校づくりの推進	7
IV	再編を進めるにあたって	9
資 料		11
○	用語の説明	12
○	参考資料	15

I 計画の策定にあたって

1 計画策定の背景と趣旨

本県では、生徒のニーズや時代の要請等に応じ、これまで県立高等学校の学科改編や特色ある学科やコースの設置をはじめ、中高一貫教育校の設置、全県一区制度の導入、入学者選抜制度の改善など、様々な県立高等学校改革に取り組んできました。

一方、情報分野をはじめとする科学技術の進展や、経済のグローバル化、少子高齢化など、社会が一層大きく変化する中で、生徒の進路等に対する考え方や課題の多様化、さらには規模の小さな学校の増加など、県立高等学校の教育環境は大きく変化しています。

このため、子どもたちへ豊かな教育環境を提供することを第一として、各学校における教育内容を充実させることは言うまでもなく、今ある教育資源を最大限活用しながら、教育予算の効果的な投資などにより、教育内容や教育環境を一段と向上させることが必要となっています。

こうした状況を受け、教育委員会では、平成20年7月に「県立学校のあり方検討委員会」を設置し、6回の審議を経た上で、平成21年3月に、県立高等学校の課程、学科、適正な規模・配置のあり方などについての「報告」をいただきました。

また、平成22年9月には、「第23期滋賀県産業教育審議会」から、これからの時代や社会に対応した本県職業系の学科や職業教育の方向性、本県産業の振興に寄与する人材育成などに関する「答申」をいただきました。

さらに、平成22年8月と11月に開催した「魅力と活力ある県立高等学校づくりに向けた意見を聴く会」などで、再編の必要性および教育委員会の再編に対する基本的な考え方を示し、県民の皆さんから様々な御意見をいただけてきました。

そして、これらの「報告」や「答申」における再編に関する方向性、さらには、県民の皆さんからいただいた御意見等を踏まえ、平成23年7月に滋賀県立高等学校再編計画（原案）を公表し、県民政策コメントを実施するほか、県民説明会や「地域の高等学校教育のあり方に係る意見を聴く会」などを開催し、県民の皆さんや教育関係者の皆さんなどから様々な御意見をいただけてきました。また、平成24年8月には、「第24期滋賀県産業教育審議会」から、社会の変化に対応した福祉科教育のあり方についての「答申」をいただいたところです。

県教育委員会では、これらの御意見等を踏まえ、「魅力と活力ある県立高等学校づくりに向けて～滋賀県立高等学校再編計画～」(以下「再編計画」という。)を策定し、これまで以上に魅力と活力ある県立高等学校の実現を目指してまいります。

2 基本計画の考え方

この滋賀県立高等学校再編基本計画（以下「基本計画」という。）は、平成33年度までの概ね10年後を見据えた、長期的かつ全県的な視野に立った県立高等学校再編の基本的な考え方を示すものです。

なお、具体的な再編内容については、別途作成する実施計画で示します。

Ⅱ 県立高等学校の現状と課題

1 社会の変化

これからの社会は、少子化・高齢化をはじめ、情報化、グローバル化、科学技術の高度化が一層進展し、ますます複雑化・多様化が進むと考えられ、それに伴い家族形態や産業構造など、社会や経済が大きく変化することが予測されます。

こうした中、学校教育には普遍的な教育理念を大切にしつつ、社会の変化に合わせて対応していくことが常に求められています。

2 生徒の進路希望や課題の多様化

(1) 生徒の多様化

本県の平成 24 年 3 月中学校卒業者の高等学校等への進学率は 98.9%で、中学校卒業者のほとんどが高等学校に進学するとともに、複雑・多様化する社会状況を背景に、生徒の興味・関心や進路に対する考え方が一層多様化しています。また、自らの目標に向かって積極的に学校生活を送ろうとする生徒がいる一方で、目的意識が希薄である、人間関係づくりが苦手であるなど、様々な生徒が高等学校に入学するようになっています。

県立高等学校の中途退学者数は、ここ数年減少傾向にあるものの、400～500 人台で推移しており、退学の理由としては、進路変更や学校生活・学業不適応などが多くを占めています。こうしたことから、編入学による学び直しや転入学を希望する生徒は依然として多い状況にあります。

このような中、生徒の多様なニーズ等に応える学習内容等の充実や、様々な学習歴を持つ生徒に対応した取組が必要となっています。

(2) 生徒の志望や進路状況の変化

中学生の高等学校への志望状況を見ると、大学等への進学を見据えて普通科へ進学する割合が高い状態にあるとともに、職業系専門学科の高等学校においても、上級学校へ進学する生徒が増加しており、高等学校卒業者の半数以上が大学等の上級学校へ進学する状況にあります。

このような中、勤労観・職業観の育成を図るとともに、職業系専門学科から上級学校への進学も視野に入れた教育内容の充実などが課題となっています。

(3) 定時制・通信制課程の役割の変化

定時制や通信制の高等学校は、従来の勤労青少年のための学校という色合いが薄れ、中途退学者や不登校経験のある生徒をはじめ、多様な生徒が入学しており、学び直しの学校としての役割が強まっています。

ここ数年の定員充足状況を見ると、通信制課程ではほぼ充足しているものの、定時制課程では、地域、学科、昼間・夜間の別により大きな差があり、特に職業系専門学

科を希望する生徒は少なくなっています。

このような状況を考え合わせると、定時制課程については必ずしも職業系専門学科である必要はないと考えられ、生徒のニーズに対応した見直しが必要となっています。

3 生徒数の推移と高等学校の規模の変化

(1) 中学校卒業（予定）者数の推移

県全体の中学校卒業生数は、平成2年3月卒業の20,747人をピーク（昭和39年に次ぐ戦後2番目）に減少傾向にあり、平成24年3月卒業生は14,226人と、ピーク時に比べ6,521人減少しています。

今後、全県的には増加傾向を示したのち、現在の小学校5年生が卒業する平成29年3月を境に、減少に転じていくと予測されます。

また、中学校卒業予定者数を地域別に見てみると、湖南地域（草津市・栗東市・守山市・野洲市）では今後も増加を続ける一方、それ以外の地域では、横ばいまたは減少傾向が予測されます。

(2) 生徒数の増減に伴う高等学校の規模の変化

県内には、中学校卒業生数の減少により、すでに規模の小さな学校が多くを占める地域があります。こうした地域でさらに生徒数が減少していくと、学校の小規模化が一層進むことが予測されます。

一方、中学校卒業生数の増加が続く地域では、今後とも規模の大きな学校が多い状況が続くと見込まれます。

こうした中、多様な生徒との出会いや互いに切磋琢磨する機会の確保、部活動や学校行事などの充実、進路希望等に応じた教育の提供、生徒と教員とのコミュニケーションの確保など、高校教育において考慮しなければならない様々な要素を踏まえながら、学校の教育力が高まるよう学校の規模や配置を見直す必要があります。

4 教育環境の整備

生徒に対し、時代に対応した豊かな教育環境を提供するためには、施設・設備の修繕、図書や教材機器の購入、備品などの更新・修繕が必要です。

このため、限られた教育資源を最大限に活用しつつ、より効果的・効率的な学校運営を行うとともに、教育予算の効果的な投資などにより、教育環境の整備を図ることが必要となっています。

Ⅲ 魅力と活力ある県立高等学校づくりに向けて

1 魅力と活力ある県立高等学校づくりに向けて

高等学校には、生徒に一般的な教養を高め、専門的な知識、技術および技能を習得させるとともに、その個性に応じて将来の進路を決定し、自ら意欲を持って学び考える力、豊かな人間性や創造性などを養い、変革の時代にあっても自ら未来を切り拓く力をはぐくむことが求められています。

高等学校がこのような役割を果たすには、社会の変化や生徒の多様化、生徒数の減少への対応など、教育内容の充実とともに教育活動が効果的なものとなるよう教育環境を整えていくこと～魅力と活力ある学校づくり～が必要です。

魅力と活力ある学校とは、生徒が自らの興味・関心、進路希望等に応じた学習ができる学校であり、学校行事や部活動などの取組を活発に行うことができたり、多様な生徒や教師との幅広い出会い、集団活動を通して互いに刺激し合うことができる学校であり、希望する進路が実現できる学校、自己実現ができる学校です。

このため、いつの時代においても変わることのない普遍的な教育理念を大切にしつつ、次の視点で高等学校の再編に取り組みます。

魅力ある学校づくり（多様な学校選択肢等の提供）

生徒の興味・関心や進路希望等に応じた高等学校教育を提供するため、高等学校に対する県民の期待、社会の要請などを踏まえた上で、教育内容の質的充実を図り、魅力ある高等学校教育を展開します。

活力ある学校づくり（豊かな教育環境の提供）

多様な選択科目の開設をはじめ、部活動や学校行事などの集団活動の活性化、施設や設備の効果的・効率的な利用等の観点から、県立高等学校の活力の維持向上を図ります。

2 県立高等学校再編の基本的な考え方

高等学校に入学する全ての子どもたちが、充実した学校生活を送る中で、希望する進路を実現し、また自己実現を図ることができるよう、次の考え方で県立高等学校の再編を進めます。

(1) 教育における不易の取組

子どもたちが、社会の中で自らの役割を果たし、信頼されながら人生を歩むことができるよう、自分自身を鍛え伸ばし、社会と共同できる資質を育てます。

ア 基礎・基本の徹底

自ら学び考える力や社会の変化に対応できる資質や能力を育成するため、そのベースとなる基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得に向けて、基礎・基本の徹底を図ります。

イ 自主自律の精神の涵養

学級活動や部活動、学校行事などの集団活動の中で、自ら考え行動することにより、他者と豊かにコミュニケーションを図ろうとする態度や、社会生活を送るうえで持つべき規範意識などの自律性や社会性を育みます。

ウ 自然や地域と共生する力の育成

滋賀県が有する豊かな自然、歴史、文化、産業、地域コミュニティなどの様々な地域資源を活かした教育活動を展開し、自分たちが育ってきた地域に愛着を持ち、社会の一員として地域に貢献しようとする態度を養います。

(2) 魅力ある学校づくりの推進

社会の進展、地域や産業界の要請などを踏まえつつ、生徒自らの興味・関心や進路希望等に応じて、学びたい教科や科目等を学習し、将来の生活や職業に役立つ知識・技能を積極的に学ぶことができるよう、全ての高等学校においてそれぞれの教育目標等に応じた魅力ある学校づくりに取り組みます。

ア 新しいタイプの学校の設置

生徒の多様な学習ニーズや進路希望等に対応し、生徒一人ひとりの個性や能力に応じた教育の推進を図る新しいタイプの高等学校として、単位制による全日制課程および定時制課程を併置した総合単位制高等学校を設置します。

イ 時代に対応した教育の推進等

生徒の多様化を踏まえ、各学校の教育目標に応じた教育内容や指導方法の充実・改善を一層図ります。

また、将来の科学技術を支える人材やグローバル社会で活躍する人材の育成など、

これからの社会の進展を見据えた教育内容の充実等を図ります。

ウ キャリア教育の推進

生徒に勤労観・職業観を身につけさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育むため、キャリア教育の視点を踏まえた教育内容の充実等を図ります。

エ 職業教育の充実

学校の教育資源等を活かした特色化を一層推進するとともに、施設・設備の効率的な活用や集中的な投資などにより専門性を維持向上できるよう、職業系専門学科の集約化を図ります。

また、細分化されすぎている小学科を整理・統合し、知識や技能の高度化に対応できる基礎的・基本的な学習等を重視するとともに、学習内容を理解しやすい名称に改めます。

高等学校段階での職業教育をもとに、上級学校へ進学してさらに高度な知識・技能を身につけるといふ専門教育や資格取得のあり方を踏まえ、学科の改編や教育内容の充実を図ります。

オ 多様な学びの提供

多様な学びの機会を確保し、生徒の進路希望等に応じた教育を行うため、総合学科の設置や教育内容の充実を図ります。

カ 定時制課程の見直し

定時制課程の役割の変化や、単位制による全日制課程を併置した新たな総合単位制高等学校を設置することなどを踏まえ、地域の実情等に配慮しながら定時制課程の配置を見直します。

また、3年での卒業や転編入学を容易にするなど、生徒の多様なニーズに柔軟に対応できる教育課程が編成できるよう学科の改編等を行います。

キ 中高一貫教育校の方向性

本県では、平成15年度に新たな学校選択肢を提供することを目的として、併設型中高一貫教育校を3校設置し、6年間の特色ある教育課程のもとで、個性や創造性を伸ばす教育を展開しています。一方、新たな中高一貫教育校を設置することは、地域の中学校の学級編成などに及ぼす影響も大きいと考えられることから、当面は既設3校としながら、再編による生徒の動向を見据えつつ検討を行ってまいります。

(3) 活力ある学校づくりの推進

学校は生徒が社会でより良い人間関係を結び、共同で仕事をするための資質を育てるなど、人と人との共同に向けた基盤をつくる場です。共同体においてそれぞれの個人が責任を持つために、自分自身を鍛え伸ばすこと（主体性）、共同できる資質を育

てること（社会性）が大切です。

こうした資質や能力は、授業や学校行事、部活動など教育活動の全ての中で育まれていくと考えられます。

このため、自分の興味・関心や意欲をかき立てるものと出会い、様々な考え方や能力を持った友人との出会いなど、より多くの教育プログラムや教員、生徒と出会える環境づくりに取り組みます。

ア 標準とする学校規模

高等学校全日制課程の学校規模については、県立学校のあり方検討委員会の報告を踏まえ、多様な科目の開設など幅広い教育課程の編成、生徒が切磋琢磨する機会の確保、学校行事・部活動など集団活動の円滑な実施など様々な要素を勘案して、1学年あたり概ね6学級から8学級を標準とします。

イ 学校の統合等

現在、通学区域が全県一区制のもとであっても、普通科で8割程度の中学生が地域の高等学校に進学する状況にあることなどから、地域ごとの生徒数の推移を見据えつつ、標準を下回る規模の学校が多くを占める地域において、学校の配置バランス、学科の特性、地理的条件などの地域性、学びの多様性の確保等を考慮しながら、学校の統合等を行い、地域全体の学校活力の維持向上を図ります。

VI 再編を進めるにあたって

再編を進めるにあたっては、次のことに留意しながら進めていきます。

- 1 全県一区制度のもとであっても、全日制高等学校の普通科進学者の約8割が地域の高等学校に進学していること等を踏まえ、それぞれの地域の実情に配慮しながら進めます。
- 2 再編計画の実施に際して混乱が生じないように、計画内容と進め方を県民に広く周知しながら進めます。
- 3 学校の統合にあたっては、対象校のこれまでの特色や伝統、成果等を新しい学校における教育活動の中に活かすなど、発展的な再編になるよう取り組みます。
- 4 県立高等学校の募集定員については、地域ごとの中学校卒業予定者数や進学志望の動向などを踏まえ、それぞれの年度において、地域ごとの定員を確保していきます。
- 5 再編計画の円滑な実施を図るため、教育環境の整備に伴う経費について、計画的に予算措置を行います。

資 料

○ 用語の説明	12
○ 参考資料	
1 県立学校一覧（平成 24 年度）	15
2 県立高等学校課程・学科地域別配置一覧（平成 24 年度）	16
3 中学校卒業（予定）者の推移（全県）	17
4 中学校卒業（予定）者の推移（地域別）	18
5 中学校卒業生数、高校等進学志望率、高校等進学率、就職率推移	19
6 全日制高等学校における普通科・専門学科・総合学科別の進路状況	20
7 県立高等学校（全日制）の第 1 学年募集定員による学校規模（地域別）	21
8 高等学校（全日制）第 1 学年募集定員の学級数別学校数の全国比較	22

用語の説明

【高等学校の区分】

高等学校は、授業を行う時間帯や方法などの違いにより「全日制課程」、「定時制課程」または「通信制課程」に区分され、さらに学年による教育課程の区分を設ける「学年制」とその区分を設けない「単位制」に分けられます。

また、教育内容により「普通科」、「専門学科」（農業学科、工業学科、商業学科、理数学科、音楽学科等）および「総合学科」の3つの学科に区分されます。

【課程の区分】

＜全日制課程＞

全日制課程は、週当たり 30 単位時間を標準として授業を行う課程で、修業年限は3年となっています。

滋賀の県立高等学校で全日制課程を置く学校は 46 校で、普通科、専門学科（10 学科）、総合学科の計 12 学科が設置されています。

＜定時制課程＞

定時制課程は、夜間その他特別の時間帯に授業を行う課程で、修業年限は3年以上となっています。

卒業するまでに通常4年かかりますが、学校によっては、併修や学校以外で単位を修得する制度等を活用することにより、3年で卒業することも可能です。

県立高等学校で定時制課程を置く学校は、5校1分校で、そのうち全日制との併置校は3校、単独校は2校、他の高等学校と同一敷地内に設置されている分校が1校となっています。

学科としては、普通科と専門学科（工業学科、商業学科）が設置されています。

＜通信制課程＞

通信制課程は、主に通信による教育を行う課程で、修業年限は3年以上となっています。

学びの形態としては、自主学習により自宅で勉強してレポートを作成し、その添削指導を受けることを中心に学習を進めることを基本とします。同時に、月に数回程度（2週間に1回程度）は登校し、面接指導（スクーリング）を受け、添削指導、面接指導、試験等を通じて単位が認定されます。

県内には大津清陵高等学校に通信制の普通科が設置されています。

【学年制と単位制】

学年制は、学年ごとに定められた科目等を履修し、決められた単位数を修得した場合に次学年に進む方式で、年度末に各学校が個々の生徒に対して進級の認定（認定されないと原級留置（いわゆる「留年」））を行います。最終学年の課程を修了し、全課程の修了が認められれば卒業することができます。

単位制は、学年による教育課程の区分を設けない方式で、原級留置の考え方はとりません。一定期間（修業年限は全日制課程では3年、定時制課程・通信制課程では3年以上）在学し、必要な単位修得などの条件を満たし、全課程を修了したと認められれば卒業することができます。

従前は「学年制」による教育のみでしたが、昭和63年度に「単位制」による教育が定時制課程と通信制課程において認められ、さらに平成5年度には全日制課程にも認められました。

【学科・コース・系列】

＜学科＞

学科は、中学校教育の基礎の上に、さらに幅広い教養を身に付けることをねらいとする「普通科」と、専門に関する知識・技術を身につけることをねらいとする「専門学科」、普通科と専門学科の両方の内容を幅広く学習できる「総合学科」に大別されます。

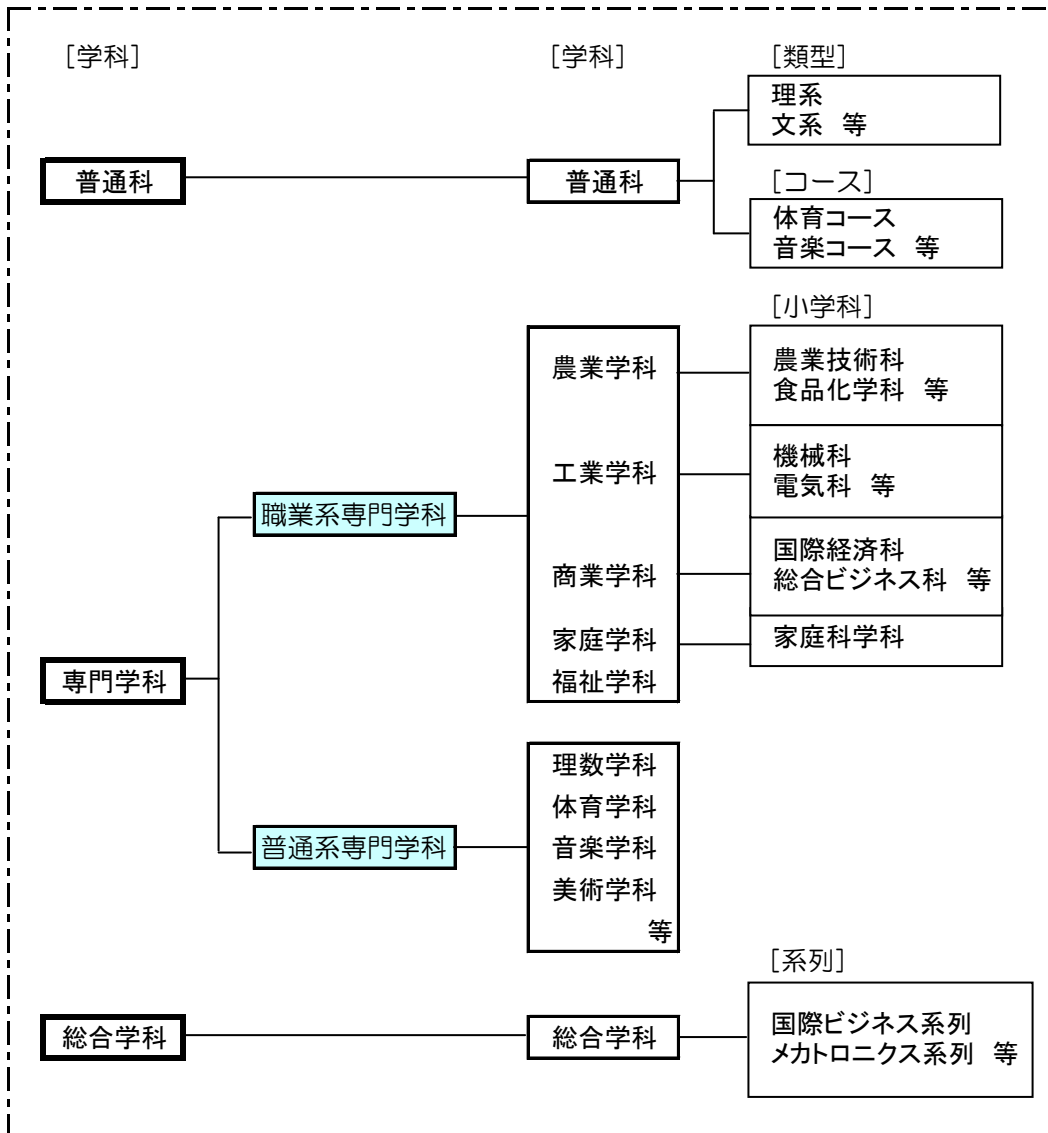
また、「普通科」「農業学科」のようないわゆる「大学科」とその下位で細分化される「機械科」「セラミック科」等のいわゆる「小学科」とを区別して使用しています。

専門学科は、農業学科、工業学科、商業学科、家庭学科、福祉学科等のような「職業教育を主とする専門学科」と、理数学科、音楽学科、体育学科、美術学科、国際学科等のような「普通教育の特定分野をより高度に拡充させた専門教育を行う学科」に区分され、本計画ではそれぞれ「職業系専門学科」「普通系専門学科」と呼びます。

＜コース・系列＞

普通教科を学びながら興味・関心のある特定の分野を深く学習するために、一定の系統だった特色をもった科目を配列して教育課程を編成したものをコースといいます（体育コース、音楽コースなど）。

系列とは、総合学科において、生徒自身の興味・関心や進路の方向に沿った科目履修ができるように、相互に関連する普通科目や専門科目を科目群としてまとめたものをいいます。



【総合単位制高等学校】

総合単位制高等学校とは、全日制課程と定時制課程（午後部・夜間部など）が併置された単位制による高等学校をいいます。

定時制課程では、1日4時間の学習を基本としますが、生徒一人ひとりが自分に合った時間割を組み、所属する課程・部以外の授業を受けることにより、3年で卒業することが可能です。

参考資料

1 県立学校一覽(平成24年度)

学校名	学科名	科名	学級数			学科計	学校計	
			1年	2年	3年			
県立高校全日制								
膳所	普通	普通	10	10	10	30	33	
		理数	1	1	1	3		
堅田	普通	普通	5	5	6	16	16	
東大津	普通	普通	10	10	10	30	30	
北大津	国際	国際文化	5	4	4	13	16	
		国際文化	1	1	1	3		
大津	家庭	普通	6	6	6	18	24	
		家庭科学	2	2	2	6		
石山	音楽	普通	8	8	8	24	27	
		音楽	1	1	1	3		
瀬田工業	工業	機械	3	3	3	9	21	
		電気	1	1	1	3		
		情報電子	2	2	2	6		
		化学工業	1	1	1	3		
大津商業	商業	総合ビジネス	5	5	5	15	21	
		情報システム	2	2	2	6		
草津東	体育	普通	7	7	8	22	25	
		体育	1	1	1	3		
草津	普通	普通	6	6	6	18	18	
玉川	普通	普通	7	6	8	21	21	
湖南農業	農業	農業技術	1	1	1	3	12	
		園芸工学	1	1	1	3		
		食品化学	1	1	1	3		
		環境緑地	1	1	1	3		
守山	普通	普通	6	6	6	18	18	
守山北	普通	普通	5	4	5	14	14	
栗東	美術	普通	6	5	5	16	19	
		美術	1	1	1	3		
国際情報	総合	総合	6	6	6	18	18	
野洲	普通	普通	5	4	4	13	13	
水口	国際	普通	5	5	6	16	19	
		国際文化	1	1	1	3		
水口東	普通	普通	6	6	6	18	18	
甲南	総合	総合	3	3	3	9	9	
信楽	工業	普通	1	1	1	3	9	
		セラミック	1	1	1	3		
		デザイン	1	1	1	3		
石部	普通	普通	4	4	4	12	12	
甲西	普通	普通	6	6	8	20	20	
彦根東	普通	普通	8	8	8	24	24	
河瀬	普通	普通	6	6	6	18	18	
彦根西	家庭	普通	2	2	2	6	12	
		家庭科学	2	2	2	6		
彦根工業	工業	機械	2	2	2	6	19	
		電気	1	1	1	3		
		情報技術	1	1	1	3		
		建築・設備				1		1
		都市工学				1		1
		建設	1	1	1	2		2
環境化学	1	1	1	3	3			
彦根翔陽	総合	総合	5	5	5	15	15	
八幡	普通	普通	7	6	6	19	19	
八幡工業	工業	機械	2	2	2	6	18	
		電気	1	1	1	3		
		情報電子	1	1	1	3		
		建築	1	1	1	3		
		環境化学	1	1	1	3		
八幡商業	商業	商業	3	3	3	9	15	
		国際経済情報処理	1	1	1	3		
八日市	普通	普通	6	6	7	19	19	
能登川	普通	普通	4	4	4	12	12	
八日市南	農業	農業技術	1	1	1	3	9	
		食品流通	1	1	1	3		
		緑地デザイン	1	1	1	3		
日野	総合	総合	4	4	4	12	12	
愛知	普通	普通	3	3	3	9	9	

学校名	学科名	科名	学級数			学科計	学校計
			1年	2年	3年		
長浜	福祉	普通	4	4	4	12	15
		福祉	1	1	1	3	
長浜北	普通	普通	5	5	6	16	16
長浜農業	農業	生物活用	1	1	1	3	12
		ガーデン	1	1	1	3	
		食品科学	1	1	1	3	
		環境デザイン	1	1	1	3	
長浜北星	総合	総合	5	4	5	14	14
伊吹	普通	普通	4	4	4	12	12
米原	理数	普通	5	5	5	15	18
		理数	1	1	1	3	
虎姫	普通	普通	5	5	5	15	15
伊香	普通	普通	4	4	4	12	12
高島	普通	普通	6	7	7	20	20
安曇川	総合	普通	2	2	2	6	18
		総合	4	4	4	12	
合計			262	256	268	786	786

学校名	学科名	科名	学級数				学校計
			1年	2年	3年	4年	
県立高校定時制							
大津清陵	普通	普通	2	2	2	2	8
大津清陵馬場分校	普通	普通	1	1	1	1	4
瀬田	工業	機械	1	1	1	1	8
		電気	1	1	1	1	
彦根東	普通	普通	1	1	1	1	4
彦根工業	工業	機械	1	1	1	1	4
長浜北星	商業	商業	1	1	1	1	4
合計			8	8	8	8	32

学校名	学科名	科名	各年の定員			
県立高校通信制						
大津清陵	普通	普通	320人			

学校名	学級数			学校計		
	1年	2年	3年			
県立中学校						
河瀬中学校	2	2	2	6		
守山中学校	2	2	2	6		
水口東中学校	2	2	2	6		
合計			6	6	6	18

学校名	障害種別	設置部				
		幼	小	中	高	専攻科
特別支援学校						
盲学校	視覚	○	○	○	○	○
聾話学校	聴覚	○	○	○	○	
北大津養護学校	知的・肢体		○	○	○	
鳥居本養護学校	病弱		○	○	○	
長浜養護学校	知的・肢体		○	○	○	
長浜高等養護学校	知的				○	
草津養護学校	知的・肢体		○	○	○	
守山養護学校	病弱		○	○		
甲南高等養護学校	知的				○	
野洲養護学校	知的・肢体		○	○	○	
三雲養護学校	知的・肢体		○	○	○	
新旭養護学校	知的・肢体		○	○	○	
八日市養護学校	知的・肢体		○	○	○	
甲良養護学校	知的・肢体		○	○	○	

2 県立高等学校課程・学科地域別配置一覧（平成24年度）

【全日制課程】

		大津	湖南	甲賀	湖東	湖北	湖西	学校数	計
普通科単独		堅田 東大津	草津 玉川 守山 守山北 野洲	石部 甲西 水口東	彦根東 河瀬 八日市 能登川 愛知 八幡	長浜北 伊吹 虎姫 伊香	高島	21	33
普通科と専門 学科の併設	農業							0	
	工業			信楽				1	
	商業							0	
	家庭	大津			彦根西			2	
	福祉					長浜		1	
	音楽	石山						1	
	理数	膳所				米原		2	
	体育		草津東					1	
	美術		栗東					1	
	国際	北大津		水口				2	
総合						安曇川	1		
農業科単独			湖南農		八日市南	長浜農		3	3
工業科単独		瀬田工			彦根工 八幡工			3	3
商業科単独		大津商			八幡商			2	2
総合学科単独			国際情報	甲南	日野 彦根翔陽	長浜北星		5	5
学校数		8	9	6	13	8	2	46	46

【定時制課程】

		大津	湖南	甲賀	湖東	湖北	湖西	学校数	計
普通科単独		大津清陵（昼） 大津清陵馬場※			彦根東			3	3
工業科単独		瀬田			彦根工			2	2
商業科単独						長浜北星		1	1
学校数		3	0	0	2	1	0	6	6

※大津清陵馬場は分校

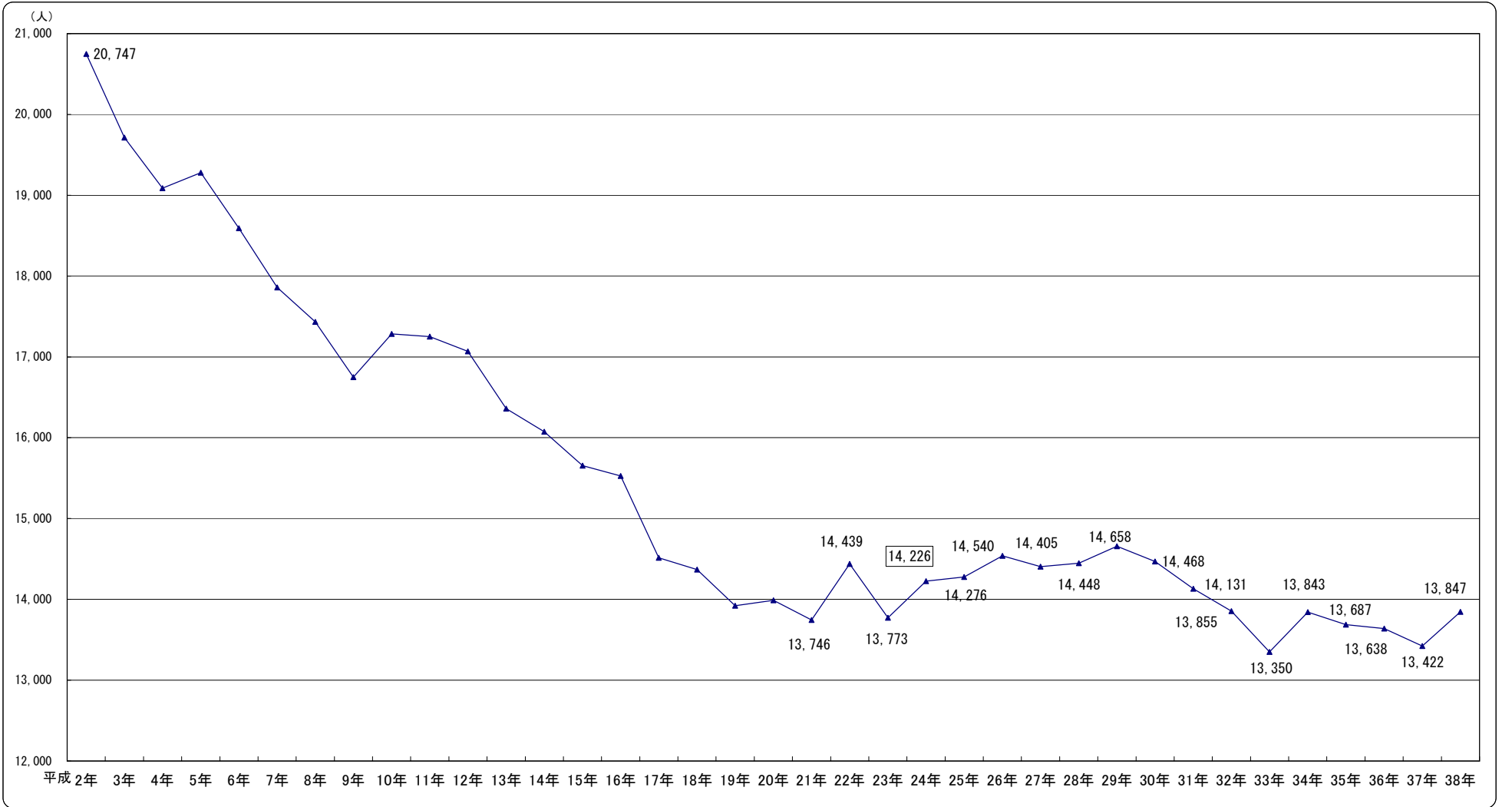
【通信制課程】

		大津	湖南	甲賀	湖東	湖北	湖西	学校数	計
普通科単独		大津清陵						1	1
学校数		1	0	0	0	0	0	1	1

3 中学校卒業(予定)者数の推移(全県)

現中3 現中2 現中1 現小6 現小5 現小4 現小3 現小2 現小1 現5歳 現4歳 現3歳 現2歳 現1歳

	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	31年	32年	33年	34年	35年	36年	37年	38年
全県計	20,747	19,715	19,088	19,279	18,592	17,859	17,432	16,750	17,283	17,251	17,068	16,361	16,073	15,655	15,526	14,515	14,370	13,922	13,988	13,746	14,439	13,773	14,226	14,276	14,540	14,405	14,448	14,658	14,468	14,131	13,855	13,350	13,843	13,687	13,638	13,422	13,847

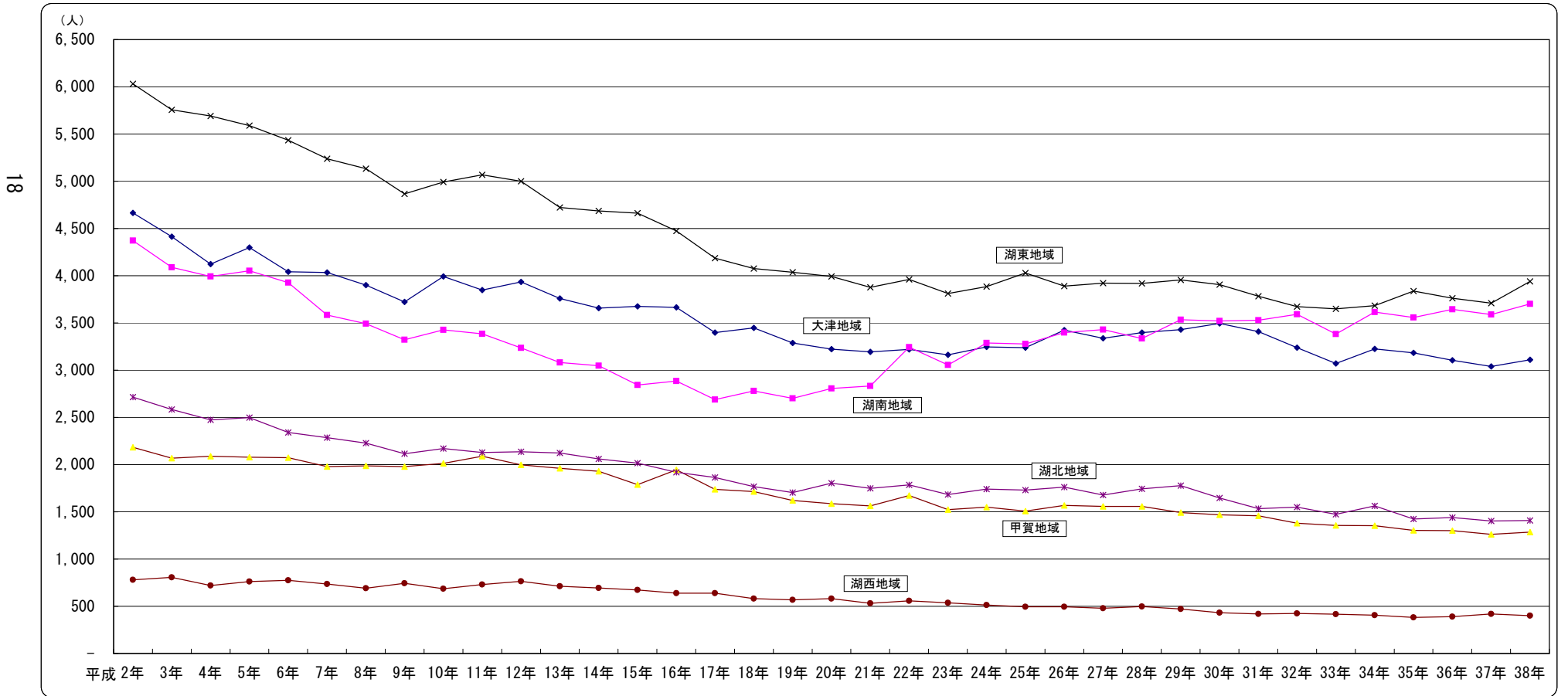


※ 平成25年～平成33年は、平成24年5月1日の学校基本調査による現員
 ※ 平成34年以降は、平成24年4月1日付けの県人口推計(統計課)による

4 中学校卒業(予定)者数の推移(地域別)

	現中3 現中2 現中1 現小6 現小5 現小4 現小3 現小2 現小1 現5歳 現4歳 現3歳 現2歳 現1歳																																																	
	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	31年	32年	33年	34年	35年	36年	37年	38年													
大津地域	4,666	4,414	4,123	4,298	4,042	4,035	3,901	3,723	3,993	3,849	3,935	3,760	3,657	3,675	3,664	3,397	3,448	3,289	3,222	3,193	3,220	3,163	3,245	3,239	3,425	3,339	3,397	3,430	3,496	3,408	3,237	3,071	3,224	3,182	3,104	3,038	3,111													
湖南地域	4,371	4,088	3,992	4,053	3,928	3,584	3,492	3,323	3,428	3,385	3,235	3,080	3,047	2,843	2,885	2,689	2,781	2,702	2,805	2,832	3,243	3,054	3,289	3,277	3,398	3,429	3,334	3,534	3,520	3,529	3,591	3,382	3,616	3,557	3,643	3,589	3,702													
甲賀地域	2,184	2,068	2,088	2,078	2,072	1,980	1,986	1,979	2,013	2,089	1,998	1,962	1,930	1,787	1,946	1,739	1,715	1,620	1,586	1,562	1,673	1,524	1,550	1,508	1,569	1,557	1,558	1,492	1,469	1,458	1,379	1,356	1,353	1,303	1,300	1,263	1,285													
湖東地域	6,031	5,756	5,690	5,590	5,435	5,239	5,134	4,866	4,993	5,069	4,999	4,723	4,686	4,663	4,473	4,186	4,076	4,037	3,992	3,878	3,960	3,812	3,886	4,028	3,890	3,922	3,918	3,955	3,905	3,782	3,673	3,650	3,682	3,838	3,761	3,709	3,940													
湖北地域	2,714	2,583	2,475	2,497	2,341	2,285	2,228	2,115	2,170	2,128	2,136	2,124	2,060	2,015	1,919	1,864	1,768	1,705	1,803	1,749	1,786	1,684	1,742	1,730	1,763	1,678	1,743	1,777	1,646	1,534	1,551	1,474	1,562	1,424	1,441	1,403	1,409													
湖西地域	781	806	720	763	774	736	691	744	686	731	765	712	693	672	639	640	582	569	580	532	557	536	514	494	495	480	498	470	432	420	424	417	406	383	389	420	400													
計	20,747	19,715	19,088	19,279	18,592	17,859	17,432	16,750	17,283	17,251	17,068	16,361	16,073	15,655	15,526	14,515	14,370	13,922	13,988	13,746	14,439	13,773	14,226	14,276	14,540	14,405	14,448	14,658	14,468	14,131	13,855	13,350	13,843	13,687	13,638	13,422	13,847													
	平成24年3月卒業生との比較(人) →																							-	50	314	179	222	432	242	▲95	▲371	▲876	▲383	▲539	▲588	▲804	▲379												
	平成24年3月卒業生を100として比較→																							100	100.4	102.2	101.3	101.6	103.0	101.7	99.3	97.4	93.8	97.3	96.2	95.9	94.3	97.3												

※ 平成25年～平成33年は、平成24年5月1日の学校基本調査による現員
 ※ 平成34年以降は、平成24年4月1日付けの県人口推計(統計課)による
 ※ 旧志賀町は合併前の数値についても比較のため、大津地域として算定



5 中学校卒業生数、高校等進学志望率、高校等進学率、就職率推移

卒業年月	卒業生数			高校等進学志望率						高校等進学率						就職率					
				1次調査			2次調査			県			全国			県			全国		
	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女
昭和26.3	18,424	9,447	8,977							37.7	44.9	30.1	45.6	51.4	39.6	55.6	53.4	57.9	46.3	46.7	45.8
27.3	17,589	8,837	8,752							38.1	45.9	30.3	47.6	52.9	42.1	55.2	52.2	58.2	47.5	47.9	49.0
28.3	18,269	9,392	8,877							40.1	45.4	34.6	48.3	52.7	43.7	45.4	46.2	44.5	41.7	43.8	39.6
29.3	14,591	7,549	7,042							45.3	52.2	37.9	50.9	55.1	46.5	41.6	42.3	40.8	40.0	41.9	38.1
30.3	15,507	7,890	7,617							45.6	52.1	38.9	51.5	55.5	47.4	43.3	44.7	42.0	42.0	43.0	40.9
31.3	18,370	9,337	9,033							45.6	51.9	39.1	51.3	55.0	47.6	46.2	46.3	46.2	42.6	44.0	41.1
32.3	18,466	9,522	8,944							45.7	51.0	40.1	51.4	54.3	48.4	46.8	48.6	44.9	43.3	45.0	41.5
33.3	18,455	9,479	8,976							48.0	53.3	42.4	53.7	56.2	51.1	45.6	46.0	45.1	40.9	42.7	39.0
34.3	18,199	9,267	8,932							51.0	55.5	46.3	55.4	57.5	53.2	41.1	42.8	39.4	39.8	41.3	38.2
35.3	15,738	7,967	7,771	56.7	62.3	51.0	55.0	61.0	48.9	52.9	57.1	48.5	57.7	59.6	55.9	43.4	43.0	43.9	38.6	39.7	37.5
36.3	11,609	5,904	5,705	60.7	65.4	55.9	59.7	64.2	55.0	60.5	63.3	57.6	62.3	63.8	60.7	37.1	36.6	37.6	35.7	36.6	34.8
37.3	16,903	8,646	8,257	62.7	66.6	58.6	60.1	63.9	56.2	59.8	62.7	56.8	64.0	65.5	62.5	36.6	36.5	36.6	33.5	34.3	32.6
38.3	21,501	10,969	10,532	67.4	70.4	64.1	65.6	69.2	61.9	61.2	64.8	57.4	66.8	68.4	65.1	32.7	33.4	31.9	30.7	31.2	30.1
39.3	22,022	11,270	10,752	70.7	74.4	66.9	68.0	71.7	64.2	63.8	67.4	60.0	69.3	70.6	67.9	30.9	31.2	30.5	28.7	29.1	28.4
40.3	20,447	10,437	10,010	72.6	76.1	69.0	70.0	74.0	65.8	65.8	69.5	61.9	70.6	71.7	69.6	28.2	28.4	28.0	26.5	26.9	26.0
41.3	18,790	9,700	9,090	75.2	78.1	72.1	72.5	75.9	68.9	69.6	73.2	65.8	72.3	73.5	71.2	25.1	25.1	25.0	24.5	24.6	24.4
42.3	16,576	8,532	8,044	77.4	80.3	74.3	75.1	78.5	71.4	73.2	76.8	69.4	74.7	75.3	73.7	21.6	21.3	21.9	22.9	23.1	22.7
43.3	15,550	7,966	7,584	79.6	81.7	77.4	77.2	79.4	75.0	75.3	77.6	72.9	76.8	77.0	76.5	20.7	20.6	20.9	20.9	21.2	20.6
44.3	14,526	7,526	7,000	81.7	83.3	80.0	80.0	81.4	78.4	78.2	80.1	76.1	79.4	79.2	79.5	17.7	17.3	18.1	18.7	18.9	18.4
45.3	14,396	7,347	7,049	84.9	86.0	83.8	82.6	83.6	81.6	80.7	81.7	79.6	82.1	81.6	82.7	15.1	15.1	15.1	16.3	16.5	16.1
46.3	13,972	7,271	6,701	87.6	88.0	87.2	85.3	85.2	85.4	84.2	84.2	84.2	85.0	84.1	85.9	14.4	16.7	11.8	13.7	13.8	13.8
47.3	13,323	6,778	6,545	89.5	89.8	89.2	87.4	87.9	86.9	86.6	87.5	85.6	87.2	86.2	88.2	11.6	13.3	9.9	11.5	11.4	11.5
48.3	12,944	6,648	6,296	92.3	92.4	92.1	90.5	90.7	90.3	89.0	89.7	88.2	89.4	88.3	90.6	9.1	11.0	7.1	9.4	9.4	9.4
49.3	14,116	7,219	6,897	94.5	94.8	94.3	92.5	93.1	91.9	90.4	91.5	89.2	90.8	89.7	91.9	5.4	4.9	5.8	7.7	7.7	7.4
50.3	13,594	6,875	6,719	95.5	95.3	95.8	93.6	93.9	93.3	91.9	92.7	91.1	91.9	91.0	93.0	3.5	3.1	3.9	5.9	5.9	5.9
51.3	13,587	6,924	6,663	95.5	95.3	95.8	93.7	94.2	93.2	92.2	92.8	91.6	92.6	91.7	93.5	3.6	3.6	3.5	5.2	5.2	5.2
52.3	13,550	6,911	6,639	96.8	96.4	97.1	94.7	94.8	94.5	93.1	93.3	92.9	93.1	92.2	94.0	3.0	3.2	2.8	4.8	5.0	4.7
53.3	13,965	7,019	6,946	96.6	96.5	96.7	93.9	94.0	93.6	92.5	92.8	92.1	93.5	92.7	94.4	3.2	3.1	3.2	4.4	4.6	4.2
54.3	14,388	7,366	7,022	96.0	95.7	96.3	94.4	94.3	94.5	92.7	92.5	93.0	94.0	93.0	95.0	3.5	3.9	3.1	4.0	4.3	3.6
55.3	15,128	7,817	7,311	96.7	96.3	97.3	94.3	94.1	94.5	92.6	92.4	92.8	94.2	93.1	95.4	3.9	4.8	2.9	3.9	4.5	3.2
56.3	14,536	7,489	7,047	96.3	96.1	96.6	94.6	94.6	94.6	93.2	93.0	93.4	94.3	93.2	95.4	3.7	4.3	3.0	4.0	4.7	3.2
57.3	13,648	7,021	6,627	96.2	95.5	97.0	94.2	93.5	94.9	93.0	92.6	93.4	94.3	93.2	95.5	3.7	4.5	2.9	4.0	4.7	3.2
58.3	16,931	8,604	8,327	96.1	95.9	96.3	93.5	93.3	93.6	91.5	91.6	91.3	94.0	92.8	95.2	4.5	5.6	3.3	3.9	4.8	3.0
59.3	17,570	8,966	8,604	96.4	95.5	97.4	93.9	92.7	95.1	93.6(93.1)	92.2	95.0	94.1(93.9)	93.0	95.3	3.5	4.4	2.6	3.8	4.6	3.0
60.3	17,463	9,008	8,455	96.6	96.3	96.9	94.7	94.0	95.5	93.7(93.3)	92.8	94.6	94.1(93.8)	93.1	95.3	3.8	4.7	2.8	3.7	4.5	2.9
61.3	18,792	9,525	9,267	96.8	96.4	97.3	94.3	93.4	95.2	94.2(93.0)	92.7	95.8	94.2(93.8)	93.1	95.3	3.8	4.8	2.8	3.6	4.4	2.7
62.3	19,576	10,146	9,430	97.2	96.7	97.8	95.6	94.6	96.8	95.2(94.1)	93.7	96.9	94.3(93.9)	93.2	95.4	2.7	3.5	1.8	3.1	3.9	2.3
63.3	20,509	10,409	10,100	97.3	96.7	98.0	95.4	94.3	96.5	95.3(94.2)	93.7	97.0	94.5(94.1)	93.4	95.7	2.6	3.4	1.8	3.0	3.9	2.0
平成元.3	20,675	10,577	10,098	97.4	96.6	98.1	95.3	94.2	96.4	95.5(93.6)	94.1	97.0	94.7(94.1)	93.6	95.9	2.4	3.3	1.6	2.9	3.8	1.9
2.3	20,747	10,742	10,005	97.6	97.2	98.0	95.7	95.0	96.4	95.9(94.2)	94.8	97.2	95.1(94.4)	94.0	96.2	2.1	3.0	1.0	2.8	3.7	1.8
3.3	19,715	10,063	9,652	97.6	97.2	98.0	95.7	94.9	96.5	95.8(94.0)	94.5	97.1	95.4(94.6)	94.3	96.4	2.4	3.5	1.3	2.6	3.4	1.7
4.3	19,088	9,764	9,324	97.9	97.5	98.2	96.0	95.0	97.0	96.5(94.6)	95.4	97.7	95.9(95.0)	94.8	96.9	1.6	2.3	0.9	2.3	3.1	1.5
5.3	19,279	9,871	9,408	97.7	97.3	98.0	96.5	95.8	97.3	96.8(94.7)	95.7	97.9	96.2(95.3)	95.3	97.2	1.2	1.6	0.8	2.0	2.7	1.3
6.3	18,592	9,521	9,071	97.9	97.3	98.5	96.5	95.6	97.5	96.9(95.2)	95.8	98.1	96.5(95.7)	95.6	97.5	1.2	1.7	0.7	1.7	2.4	1.0
7.3	17,859	9,171	8,688	97.7	97.1	98.2	96.4	95.5	97.3	96.8(95.2)	95.6	98.0	96.7(95.8)	95.8	97.6	1.2	1.6	0.8	1.5	2.2	0.9
8.3	17,432	9,025	8,407	97.7	97.1	98.4	96.4	95.4	97.5	96.8(94.8)	95.6	98.1	96.8(95.9)	95.9	97.8	1.2	1.6	0.7	1.4	2.0	0.8
9.3	16,750	8,598	8,152	97.6	96.9	98.3	96.8	95.9	97.8	96.8(94.9)	95.6	98.1	96.8(95.9)	95.9	97.7	1.1	1.6	0.6	1.4	2.1	0.7
10.3	17,283	8,841	8,442	97.6	96.8	98.4	97.3	96.3	98.2	96.9(94.8)	95.8	98.1	96.8(95.9)	96.0	97.8	1.0	1.5	0.6	1.3	1.9	0.7
11.3	17,251	8,963	8,288	97.7	97.2	98.3	97.4	96.6	98.2	97.2(94.8)	96.3	98.1	96.9(95.8)	96.1	97.7	0.8	1.0	0.6	1.1	1.6	0.6
12.3	17,068	8,887	8,181	98.0	97.6	98.5	97.7	97.0	98.5	97.3(94.9)	96.5	98.0	97.0(95.9)	96.3	97.7	0.7	0.9	0.4	1.0	1.5	0.5
13.3	16,361	8,475	7,886	98.0	97.7	98.4	97.8	97.1	98.6	97.6(95.6)	96.7	98.6	96.9(95.8)	96.3	97.6	0.6	0.8	0.3	1.0	1.0	0.5
14.3	16,073	8,269	7,804	97.6	97.2	98.1	97.8	97.4	98.3	97.3(95.2)	96.6	97.9	97.0(95.8)	96.5	97.5	0.6	0.8	0.4	0.9	1.3	0.5
15.3	15,655	8,006	7,649	98.3	98.1	98.6	97.8	97.3	98.3	97.6(95.8)	97.1	98.1	97.3(96.1)	96.9	97.7	0.5	0.6	0.2	0.8	1.1	0.4
16.3	15,526	8,042	7,484	98.4	98.2	98.6	98.3	97.9	98.7	98.1(96.6)	97.9	98.4	97.5(96.3)	97.2	97.8	0.6	0.7	0.4	0.7	1.0	0.4
17.3	14,515	7,413	7,102	98.3	98.0	98.5	98.5	98.4	98.5	98.2(96.6)	98.0	98.4	97.6(96.5)	97.3	97.9	0.6	0.7	0.5	0.7	1.0	0.4
18.3	14,370	7,309	7,061	98.4	98.2	98.5	98.4	98.3	98.5	98.0(96.3)	97.8	98.3	97.7(96.5)	97.4	98.0	0.6	0.7	0.5	0.7	1.0	0.4
19.3	13,922	7,220	6,702	98.6	98.6	98.5	98.7	98.7	98.7	98.2(96.7)	98.2	98.3	97.7(96.4)	97.4	98.0	0.5	0.6	0.4	0.7	1.0	0.4
20.3	13,988	7,227	6,761	98.8	98.7	99.0	98.7	98.7	98.7	98.3(96.5)	98.1	98.5	97.8(96.4)	97.6	98.1	0.6	0.7	0.4	0.7	0.9	0.4
21.3	13,746	6,981	6,765	98.9	98.7	99.0	98.8	98.5	99.0	98.4(96.9)	98.1	98.8	97.9(96.3)	97.7	98.2	0.4	0.5	0.3	0.5	0.7	0.

6 全日制高等学校における普通科・専門学科・総合学科別の進路状況

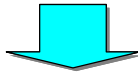
(単位:%)

学科		各年3月卒業生進路状況														
		大学等					専門学校等					就職				
		H20	H21	H22	H23	H24	H20	H21	H22	H23	H24	H20	H21	H22	H23	H24
普通科	普通科	66.0	67.6	67.9	66.8	66.9	20.4	19.1	19.4	20.3	20.0	9.1	8.5	7.7	7.6	8.3
	普通科系 専門学科	70.5	73.8	71.3	67.6	65.1	16.8	15.2	16.1	17.9	17.8	3.7	4.6	3.4	7.6	6.2
	普通科+ 普通科系専門学科	66.2	67.8	68.0	66.8	66.9	20.3	19.0	19.3	20.2	20.0	9.0	8.3	7.6	7.6	8.2
職業系専門学科	農業学科	13.8	14.3	11.2	10.5	9.8	13.8	12.1	18.2	21.0	20.7	64.2	63.1	58.8	58.5	59.7
	工業学科	19.5	20.9	25.2	19.7	21.4	16.8	19.0	18.5	19.3	16.6	61.7	56.9	52.3	57.0	57.4
	商業学科	35.8	37.2	34.0	46.2	33.0	25.9	20.0	29.5	18.7	21.7	36.6	40.0	32.7	33.0	40.3
	家庭学科	33.1	31.4	28.1	32.9	25.2	28.3	30.2	27.5	38.8	40.6	23.5	30.2	24.2	21.7	18.2
	福祉学科	46.2	65.7	55.0	81.6	43.2	28.2	14.3	12.5	5.3	32.4	25.6	14.3	30.0	13.2	21.6
職業系専門学科	24.1	25.2	25.6	26.9	22.8	19.7	18.7	21.9	20.9	21.1	51.9	51.0	45.6	47.3	49.5	
総合学科	41.4	43.8	38.4	40.5	37.1	26.4	24.4	26.2	23.9	24.9	26.7	23.0	29.6	30.0	33.1	

7 県立高等学校（全日制）の第1学年募集定員による学校規模（地域別）

【平成2年度】

学級数	大津地域			湖南地域		甲賀地域		湖東地域		湖北地域		湖西地域	
	校数	校数	校名	校数	校名	校数	校名	校数	校名	校数	校名	校数	校名
11	4	2	東大津 膳所					1	八幡(普)10(看)1			1	高島
10	7	2	北大津 大津商業(商)10	1	守山	2	甲西 水口東	2	彦根東 八日市				
9	8	3	堅田 大津(普)7(家)2 石山(普)8(音)1	3	草津東 玉川 野洲			1	河瀬	1	伊香(普)7(農)2		
8	9	1	瀬田工業(工)8	3	守山北 栗東 国際情報(商)4(工)4	1	水口	2	彦根工業(工)8 八幡工業(工)8	2	長浜北(普)7(家)1 長浜商工(工)5(商)3		
7	7			1	草津			4	能登川 愛知 日野(普)5(商)2 彦根西(普)5(家)2	1	虎姫	1	安曇川(普)2(商)5
6	6					1	甲南(普)3(農)1(工)1	2	彦根商業(商)6 八幡商業(商)6	3	伊吹 長浜 米原(普)4(理)2		
5	2			1	湖南農業(農)5					1	長浜農業(農)5		
4	1							1	八日市南(農)4				
3	1					1	信楽(普)1(工)2						
合計	45		8		9		5		13		8		2
平均 学級数			9.6		8.1		7.4		7.7		6.9		9.0



【平成24年度】

学級数	大津地域			湖南地域		甲賀地域		湖東地域		湖北地域		湖西地域	
	校数	校数	校名	校数	校名	校数	校名	校数	校名	校数	校名	校数	校名
11	1	1	膳所(普)10(理)1										
10	1	1	東大津										
9	1	1	石山(普)8(音)1										
8	3	1	大津(普)6(家)2	1	草津東(普)7(体)1			1	彦根東				
7	5	2	瀬田工業(工)7 大津商業(商)7	2	玉川 栗東(普)6(美)1			1	八幡				
6	14	1	北大津(普)5(国)1	3	草津 守山 国際情報(総)6	3	水口(普)5(国)1 水口東 甲西	4	河瀬 彦根工業(工)6 八幡工業(工)6 八日市	1	米原(普)5(理)1	2	高島 安曇川(普)2(総)4
5	9	1	堅田	2	守山北 野洲			2	彦根翔陽(総)5 八幡商業(商)5	4	長浜(普)4(福)1 長浜北 虎姫 長浜北星(総)5		
4	8			1	湖南農業(農)4	1	石部	3	彦根西(普)2(家)2 能登川 日野(総)4	3	伊吹 伊香 長浜農業(農)4		
3	4					2	甲南(総)3 信楽(普)1(工)2	2	愛知 八日市南(農)3				
合計	46		8		9		6		13		8		2
平均 学級数			7.9		6.0		4.7		5.2		4.8		6.0

8 高等学校（全日制）第1学年募集定員の学級数別学校数の全国比較

（平成24年度 都道府県立）

第1学年の学級数	全国		滋賀県				
	学校数	比率（%）	学校数	比率（%）			
1学級	67	2.1%	0	0.0%			
2学級	228	7.1%	0	0.0%			
3学級	282	8.7%	4	8.7%			
4学級	417	12.9%	8	17.4%			
5学級	445	13.8%	9	19.6%			
6学級	630	19.5%	14	30.4%			
7学級	484	15.0%	5	10.9%			
8学級	446	13.8%	3	6.5%			
9学級	168	5.2%	1	2.2%			
10学級	54	1.7%	1	2.2%			
11学級	9	0.3%	1	2.2%			
12学級	0	0.0%	0	0.0%			
13学級	0	0.0%	0	0.0%			
14学級	0	0.0%	0	0.0%			
15学級以上	2	0.1%	0	0.0%			
合計	3,232	100%	46	100%			
1校平均学級数	5.63学級		5.70学級				
1校平均学級数全国順位	—		19位				
1校平均学級数 全国順位 (多い順)	1位	大阪	7.30	1校平均学級数 全国順位 (少ない順)	47位	北海道	4.05
	2位	埼玉	7.12		46位	山口	4.10
	3位	神奈川	6.94		45位	島根	4.12
	4位	愛知	6.91		44位	岩手	4.16
	5位	奈良	6.75		43位	高知	4.23
	6位	沖縄	6.61		42位	秋田	4.35
	7位	京都	6.59		41位	山形	4.38
	8位	福岡	6.49		40位	鹿児島	4.45
	9位	千葉	6.47		39位	長崎	4.59
	10位	和歌山	6.37		38位	青森	4.63

※分校を除く

出典：富山県教育委員会作成資料（平成24年3月）より

魅力と活力ある県立高等学校づくりに向けて

～滋賀県立高等学校再編実施計画～

平成24年12月

滋賀県教育委員会

目 次

I	実施計画の考え方	1
II	再編の具体的な方策	1
1	新しいタイプの学校の設置	1
2	統合による新しい学校の設置	1
3	地域に根ざした学校づくり	2
4	職業系専門学科の改編等	2
5	総合学科の充実	3
6	定時制課程の見直し	3
7	その他教育内容の充実等	3
III	各地域の再編の概要と再編の方向	5
1	大津地域（大津市）	5
2	湖南地域（草津市、守山市、栗東市、野洲市）	5
3	甲賀地域（甲賀市、湖南市）	6
4	湖東地域（彦根市、近江八幡市、東近江市、蒲生郡、愛知郡、犬上郡）	6
5	湖北地域（長浜市、米原市）	7
6	湖西地域（高島市）	8
IV	具体的な再編内容	9
1	新しいタイプの学校の設置	9
2	統合による新しい学校の設置	11
3	地域に根ざした学校づくり	16
4	職業系専門学科の改編等	17
5	総合学科の充実	22
6	定時制課程の見直し	23

I 実施計画の考え方

この「滋賀県立高等学校再編実施計画」は、「滋賀県立高等学校再編基本計画」で示した県立高等学校再編の基本的な考え方に基づき、平成 25 年度から概ね 5 年間の再編の具体的な内容を示すものです。

なお、今後の社会状況の変化や生徒数の推移、再編の進捗状況などを見極めながら、必要に応じて次期以降の実施計画を策定します。

II 再編の具体的な方策

魅力と活力ある高等学校づくりを進めるため、生徒の興味・関心や進路希望等に応じた教育を提供し、魅力ある教育を展開するとともに、多様な選択科目の開設をはじめ、部活動や学校行事などの集団活動の活性化、施設や設備の効果的・効率的な利用等の観点から学校活力の維持向上を図ります。

このため、地域や学校の状況等に応じ、次の具体的な方策を講じるとともに、これに伴う必要な施設・設備の整備を行います。

各再編の具体的な内容や再編の実施方法等については、「IV 具体的な再編内容」で示します。

1 新しいタイプの学校の設置

【総合単位制高等学校の設置（能登川高等学校の改編）】

生徒それぞれの学習ペースやスタイルなど、多様な学習ニーズに応える学びの場として、また、高等学校を中途退学した生徒や進路変更を希望する生徒に対する新たな学びの場として、柔軟な学びのシステムを特色とする全日制・定時制併置の総合単位制高等学校を能登川高等学校に設置します。

2 統合による新しい学校の設置

【彦根西高等学校と彦根翔陽高等学校の統合による新しい学校の設置】

彦根西高等学校で培ってきた普通科と家庭学科の教育資源と彦根翔陽高校の総合学科で展開してきた普通・商業の系列を融合させ、普通・商業・家庭の系列で編成する総合学科高校を設置します。

新校は、多様な学びの中から夢の実現を支援する学校、多様な生徒が集い、互いに切磋琢磨しながら夢を育み学ぶ学校を目指します。

新校の校地については、彦根翔陽高等学校の校地を活用することとし、校名については、両校の関係者等からなる懇話会を設け、意見を聴きながら検討を進めます。

【長浜高等学校と長浜北高等学校の統合による新しい学校の設置】

長浜高等学校と長浜北高等学校を統合し、湖北地域の既存の普通科単独校と並び立つ、大学等への進学指導に重点を置く地域の中核的な普通科単独校を設置します。

新校は、長浜市で展開されている英語教育の成果を高校教育につなげるとともに、高等学校における新しい英語教育の全県のモデル校とし、思考力・判断力・表現力および語学力といったグ

ローバル社会で活躍する資質と能力の育成を目指します。

新校の校地については、長浜高等学校の校地を活用することとし、校名については、両校の関係者等からなる懇話会を設け、意見を聴きながら検討を進めます。

3 地域に根ざした学校づくり

【信楽高等学校の学科改編等】

通学上の配慮が必要な地域において、多様な学びの機会を確保し、生徒の進路希望等に応じた教育を行うため、信楽高等学校を普通・セラミック・デザインの3系列を持つ総合学科へ改編します。

また、地場産業等の地域の教育資源を活用した教育活動の展開や近隣校との連携、県外からも生徒を受け入れることで、学校活力の維持向上等を目指します。

こうした改編を行った後、5年を目途に検証を行い、その評価を踏まえて必要な対応を検討します。

4 職業系専門学科の改編等

(1) 農業学科

【長浜農業高等学校、湖南農業高等学校、八日市南高等学校の小学科の改編】

農業学科の小学科を分かりやすい学科体系や名称に変更するとともに、地域の特色を生かしつつ、消費者や需要者のニーズにあった農業の展開や経営の多角化（6次産業化）、大規模経営などの学習を通して、将来の本県農業の担い手としての資質と能力を育成します。

また、大学等の上級学校への進学も視野に入れた教育内容の充実に努めます。

(2) 工業学科

【瀬田工業高等学校、彦根工業高等学校、八幡工業高等学校の小学科の改編】

細分化された電気系と情報系の小学科を統合し、分かりやすい学科体系に整理するとともに、知識や技能の高度化に対応できる基礎的・基本的な学力の確実な習得を図り、多様な工業分野で活躍できる資質と能力を育成します。

化学系小学科と建設系小学科を設置する学校の見直し、施設・設備の効率的な活用や集中的な投資などにより、専門学科としての教育内容の充実に図ります。

また、大学等への上級学校への進学も視野に入れた教育内容の充実に努めます。

【瀬田工業高等学校と瀬田高等学校の統合】

同一敷地内に設置されている瀬田工業高校（全日制）と瀬田高校（定時制）を統合し、全日制・定時制を併置した工業学科として、両校が持つノウハウの蓄積や施設・設備を有効に活用し、専門学科としての教育内容の充実に図ります。併せて、定時制課程の機械科と電気科を生徒の志望の実態に応じ、機械・電気科とします。

(3) 福祉学科

【長浜高等学校福祉学科の廃止（長浜北星高等学校総合学科に福祉系列を設置）】

法改正により介護福祉士試験の受験資格として必要な高等学校における学習の時間数が増

加したこと等を踏まえ、介護福祉士の国家試験合格を目指すことを重視してきた福祉科教育のあり方を見直し、基礎的・基本的な学習に重点を置き、生徒の進路希望等に応じて上級学校に進学し、さらに福祉に関する学習を深めることができる形に改めます。

併せて、総合学科の柔軟な教育課程の中に福祉に関する専門教育を取り込み、生徒の多様なニーズに対応した学習の機会を確保するため、福祉学科を総合学科の系列に改編します。

5 総合学科の充実

【長浜北星高等学校総合学科に福祉系列を設置】

長浜北星高等学校に新たに福祉系列を設置し、普通・工業・商業・福祉の多様な系列で編成する総合学科高校として教育内容の充実を図ります。

新たに設置する福祉系列では、福祉に関する基礎的・基本的な学習を通して、将来、福祉や看護、医療分野などで地域に貢献できる資質と能力を育成します。

6 定時制課程の見直し

【長浜北星高等学校定時制課程の学科改編】

3年での卒業や転編入学を容易にするなど、生徒の多様なニーズに柔軟に対応できる教育課程が編成できるよう、長浜北星高等学校定時制課程を学年制の商業学科から単位制の総合学科へ改編します。

【彦根東高等学校定時制課程の廃止】

普通科の総合単位制高等学校を湖東地域に設置することに伴い、彦根東高等学校定時制課程を廃止します。

7 その他教育内容の充実等

(1) 理数教育の充実

理数教育先進校との学校間連携等を一層推進し、科学技術や理科・数学などに興味を持つ生徒の学習意欲の喚起や能力の伸長を図り、将来の国際的な科学技術関係人材等の育成を目指します。

(2) 英語教育の充実

英語教育先進校における取組実績を活かすとともに、思考力・判断力・表現力および語学力といったグローバル社会で活躍する資質と能力の育成を目指す、新しい英語教育の取組を推進します。

(3) 大学等との連携強化

高等学校と大学等との連携を強化し、生徒がより高度な学習内容に触れることで進路選択に役立てるとともに、生徒の学問に対する興味・関心を喚起し、学習意欲を高めます。

(4) 地域資源を活かした教育活動の推進

滋賀県が有する豊かな自然、歴史、文化、産業、地域コミュニティなどの様々な地域資源を

活かした教育活動を推進するとともに、これらを特色として更なる学校の魅力づくりを進めます。

(5) ノーマライゼーションの理念に基づく教育の推進

特別支援学校との交流等を通して、ノーマライゼーションの理念に基づく教育を推進します。

(6) 教職員研修等の充実

魅力ある教育課程の編成を図るため、カリキュラムマネジメント研修や授業力向上研修などの充実を図ります。また、大学や研究機関等への研修派遣を推進し、教員の資質向上を図ります。

Ⅲ 各地域の再編の概要と再編の方向

高等学校の通学区域については、生徒の多様なニーズに応え、生徒の個性や能力を伸ばし、自ら学ぶ意欲をはぐくむため、自分に合った高校を主体的に選べるよう、高校の選択幅を最大限に広げることをねらいとして、平成18年度から全県一区となりました。

一方、全県一区制度のもとであっても、全日制高等学校の普通科進学者の約8割が地域の高等学校に進学していること等を踏まえ、各地域における再編の方向を示します。

各再編の具体的な内容や再編の実施方法等については、「Ⅳ 具体的な再編内容」で示します。

1 大津地域（大津市）

大津地域においては、理数教育先進校を中心とした理数教育の一層の充実や新しい英語教育の取組の推進など、各学校の更なる魅力づくりを図り、地域全体の教育力の向上を目指します。

〔再編内容〕

- 同一敷地内に設置されている瀬田工業高等学校（全日制）と瀬田高等学校（定時制）を統合し、専門学科としての教育内容の充実と施設・設備の有効活用を図ります。また、全日制課程工業学科の小学科を改編し、専門学科としての教育内容の充実を図るとともに、化学工業科を有する工業高校として特色ある学校づくりを進めます。
- 思考力・判断力・表現力および語学力といったグローバル社会で活躍する資質と能力の育成を目指す新しい英語教育の取組を推進し、英語教育の向上を図ります。
- SSHにおける取組実績を活かすとともに、SSH指定校との連携等を通して、科学技術や理科・数学などに興味を持つ生徒の学習意欲の喚起や能力の伸長を図り、将来の国際的な科学技術関係人材の育成を目指します。

※ SSH（スーパーサイエンスハイスクール）・・・将来の国際的な科学技術関係人材を育成するために、先進的な理数系教育を実施する学校として文部科学省が指定し、学習指導要領によらないカリキュラムの開発・実践や課題研究の推進、観察・実験等を通じた体験的・問題解決的な学習等を行う取組。現在、膳所高等学校・彦根東高等学校・虎姫高等学校が指定されている。

2 湖南地域（草津市、守山市、栗東市、野洲市）

湖南地域においては、理数教育先進校との連携や新しい英語教育の取組の推進、都市近郊型農業を特色とする農業教育など、各学校の更なる魅力づくりを図り、地域全体の教育力の向上を目指します。

〔再編内容〕

- 湖南農業高等学校農業学科の小学科を改編し、都市近郊型農業を特色として、消費者や需要者のニーズにあった農業の展開や経営の多角化（6次産業化）、大規模経営などの学習を通して、将来の本県農業の担い手としての資質と能力を育成します。
- 思考力・判断力・表現力および語学力といったグローバル社会で活躍する資質と能力の育成を目指す新しい英語教育の取組を推進し、英語教育の向上を図ります。

- SSH指定校との連携を強化し、科学技術や理科・数学などに興味を持つ生徒の学習意欲の喚起や能力の伸長を図り、将来の国際的な科学技術関係人材の育成を目指します。

3 甲賀地域（甲賀市、湖南市）

甲賀地域においては、理数教育先進校との連携や新しい英語教育の取組の推進、地域の教育資源を活用した特色ある教育活動の展開など、各学校の更なる魅力づくりを図り、地域全体の教育力の向上と学校活力の維持向上を目指します。

〔再編内容〕

- 通学上の配慮が必要な地域において、多様な学びの機会を確保し、生徒の進路希望等に応じた教育を行うため、信楽高等学校を総合学科へ改編するとともに、生徒の志望状況等を踏まえた学級数とします。同時に地場産業等の地域の教育資源を活用した教育活動の展開や近隣校との連携、県外からも生徒を受け入れることで、学校活力の維持向上等を目指します。
- 思考力・判断力・表現力および語学力といったグローバル社会で活躍する資質と能力の育成を目指す新しい英語教育の取組を推進し、英語教育の向上を図ります。
- SSH指定校との連携を進め、科学技術や理科・数学などに興味を持つ生徒の学習意欲の喚起や能力の伸長を図り、将来の国際的な科学技術関係人材の育成を目指します。

4 湖東地域（彦根市、近江八幡市、東近江市、蒲生郡、愛知郡、犬上郡）

湖東地域においては、新しいタイプの学校の設置、理数教育先進校を中心とした理数教育の一層の充実や新しい英語教育の取組の推進、農業教育や工業教育の充実、学校統合による多様な学びの中から夢の実現を支援する新校の設置など、それぞれの再編方策に沿った再編と各学校の更なる魅力づくりを進めることで、地域全体の教育力の向上と学校活力の維持向上を図り、生徒が意欲を持って学習に取り組んでいける教育を推進します。

〔再編内容〕

- 柔軟な学びのシステムを特色とする全日制・定時制併置の総合単位制高等学校を能登川高等学校に設置します。これに伴い、彦根東高等学校の定時制を廃止します。
- 学校統合による再編を行うことにより、学校の教育力の向上と湖東地域全体の学校活力の維持向上を図ります。新校は、多様な学びの中から夢の実現を支援する学校、多様な生徒が集い、互いに切磋琢磨しながら夢を育み学ぶ学校、部活動や学校行事などが活発で、豊かな人間性を育むことのできる学校を目指します。
- 思考力・判断力・表現力および語学力といったグローバル社会で活躍する資質と能力の育成を目指す新しい英語教育の取組を推進し、英語教育の向上を図ります。
- SSHにおける取組実績を活かすとともに、SSH指定校や小中学校との連携等を通して、科学技術や理科・数学などに興味を持つ生徒の学習意欲の喚起や能力の伸長を図り、将来の国際的な科学技術関係人材の育成を目指します。
- 八日市南高等学校農業学科の小学科を改編し、造園分野と住居内外の空間デザインが学べる花緑デザイン科を特色として、消費者や需要者のニーズにあった農業の展開や経営の多角化（6次産業化）、大規模経営などの学習を通して、将来の本県農業の担い手としての資質

と能力を育成します。

- 彦根工業高等学校工業学科と八幡工業高等学校工業学科の小学科を改編するとともに、学校間での小学科の集約を行い、彦根工業高等学校は建設科、八幡工業高等学校は環境化学科を有する工業高校として特色ある学校づくりを進め、専門学科としての教育内容の充実を図ります。

5 湖北地域（長浜市、米原市）

湖北地域においては、理数教育先進校を中心とした理数教育の一層の充実や新しい英語教育の取組の推進、園芸を特色とする農業教育の充実、学校統合による大学等への進学指導に重点を置く新校の設置、定時制課程の学科改編など、それぞれの再編方策に沿った再編と各学校の更なる魅力づくりを進めることで、地域全体の教育力の向上と学校活力の維持向上を図り、湖北の地で子どもたちが進路希望等に応じて学ぶことのできる環境をつくります。

〔再編内容〕

- 学校統合による再編を行うことにより、学校の教育力の向上と湖北地域全体の学校活力の維持向上を図ります。新校は、新しい英語教育の全県のモデル校とするとともに、大学等への進学指導に重点を置く地域の中核的な学校、部活動や学校行事などが活発で、豊かな人間性を育むことのできる学校を目指します。
また、中高一貫教育校については、新校の運営実績等を見定めた上で、新校設置後5年を目途に新校に設置します。
- SSHにおける取組実績を活かすとともに、SSH指定校との連携等を通して、科学技術や理科・数学などに興味を持つ生徒の学習意欲の喚起や能力の伸長を図り、将来の国際的な科学技術関係人材の育成を目指します。
- 長浜農業高等学校農業学科の小学科を改編し、草花栽培やフラワーデザインなどの草花装飾技術、果樹や野菜生産について、広大な農場や施設設備を活用した園芸全般を学習する園芸科を特色として、消費者や需要者のニーズにあった農業の展開、経営の多角化（6次産業化）、大規模経営などの学習を通して、将来の本県農業の担い手としての資質と能力を育成します。
- 介護福祉士の国家試験合格を目指すことを重視してきた福祉科教育のあり方を見直し、基礎的・基本的な学習に重点を置き、生徒の進路希望等に応じて上級学校へ進学し、さらに福祉に関する学習を深めることができる形に改めます。
併せて、総合学科の柔軟な教育課程の中に福祉に関する専門教育を取り込み、生徒の多様なニーズに対応した学習の機会を確保するため、福祉学科を総合学科の系列に改編します。
- 長浜北星高等学校に新たに福祉系列を設置し、普通・工業・商業・福祉の多様な系列で編成する総合学科高校として、学習内容の充実を図ります。
新たに設置する福祉系列では、福祉に関する基礎的・基本的な学習を通して、将来、福祉や看護、医療分野などで地域に貢献できる資質と能力を育成します。
- 長浜北星高等学校定時制課程について、3年での卒業や転編入学を容易にするなど、生徒の多様なニーズに柔軟に対応できる教育課程の編成ができるよう、学年制の商業学科から単位制の総合学科へ改編します。

6 湖西地域（高島市）

湖西地域においては、理数教育先進校との連携や新しい英語教育の取組の推進など、各学校の更なる魅力づくりを進めることで、地域全体の教育力の向上を目指します。

〔再編内容〕

- 思考力・判断力・表現力および語学力といったグローバル社会で活躍する資質と能力の育成を目指す新しい英語教育の取組を推進し、英語教育の向上を図ります。
- SSH指定校との連携を強化し、科学技術や理科・数学などに興味を持つ生徒の学習意欲の喚起や能力の伸長を図り、将来の国際的な科学技術関係人材の育成を目指します。

IV 具体的な再編内容

これまで示した学校の統合、学科改編等について、具体的な内容や再編の実施方法等を示します。

1 新しいタイプの学校の設置

【総合単位制高等学校の設置（能登川高等学校の改編）】

(1) 再編の概要

再編の内容	能登川高等学校の全日制課程普通科を学年制から単位制にするとともに、新たに定時制課程（単位制）普通科を設置し、全日制・定時制併置の総合単位制高等学校とする。
再編のねらい	生徒の多様な学習のニーズに対応した柔軟な学びのシステムにより、生徒の主体的な科目選択による学習や、様々な学習歴を持つ生徒の「学びあい」を通して、互いの人間性を高め、自己実現に向けて挑んでいく意欲をはぐくむ教育の推進を図る。
設置場所	能登川高等学校校地
再編年度	平成 26 年度
想定する学校規模	1 学年 全日制課程 3 学級、定時制課程（午後・夜間） 2 学級
学科構成	普通科（単位制による全日制課程および定時制課程）
教育活動の特色	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒一人ひとりのニーズや進路、学習ペースに合わせて、自分の時間割を作成する。 ○ 入学後に卒業までの学習計画を立て、各年度末には個別ガイダンスで時間割の見直し等を行う。 ○ 興味・関心や進路希望等に応じて、全日制と定時制の授業を相互に学ぶことも可能とする。（併修） ○ 少人数講座や基礎・発展など、生徒のニーズに応じた講座を提供する。 <p>【全日制課程】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 原則として 3 年で卒業。 ○ 英語や数学などの科目は、基礎的な学習を中心とした講座と発展的な学習に取り組む講座を設定し、生徒の進路や目標に合わせた選択を可能とする。 ○ 通常の 1～6 時限に加え、希望の進路を実現するために、7・8 時限の受講も可能とする。 <p>【定時制：午後部※】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 午後の時間帯を中心に、午前の授業も受講することで生活のリズムを作り、3 年での卒業を目指す。 <p>【定時制：夜間部※】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 昼間に働きながら夜間に学ぶスタイルで、1 日に 4 時限の学習を基本とし、3 年または 4 年間での卒業を目指す。

- 他の時間帯の授業を受講したり、働いている場所での実務を単位の一部とする「実務代替」などで単位を取得し、3年での卒業も可能とする。
- 授業展開のイメージ

	午前(8:50~12:40)				午後(13:10~17:00)				夜間(17:30~21:00)			
時限	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
授業展開	全日制				併修							
			併修		定時制(午後部)			併修				
							併修		定時制(夜間部)			

※ 「午後部」「夜間部」の名称については仮称。

- 体育施設等を使用する時間帯を工夫することにより、全日制・定時制の部活動の活動時間を確保する。

以上の特色を基本として、今後さらに詳細な検討を進める。

(2) 改編に向けて

- 必要な教室の増設に加え、生徒が自主的に学習し、きめ細かな指導が受けられる施設や、定時制の給食室、グラウンドの夜間照明などを整備します。
- 改編前年度に学校説明会、入学者選抜を実施します。

(3) 改編の実施方法

- 平成26年度入学者選抜より、改編後の課程・学科による募集を開始します。

(4) その他

- 平成25年度以前に能登川高等学校に入学した生徒については、入学時に示された教育課程を履修することを保障します。

2 統合による新しい学校の設置

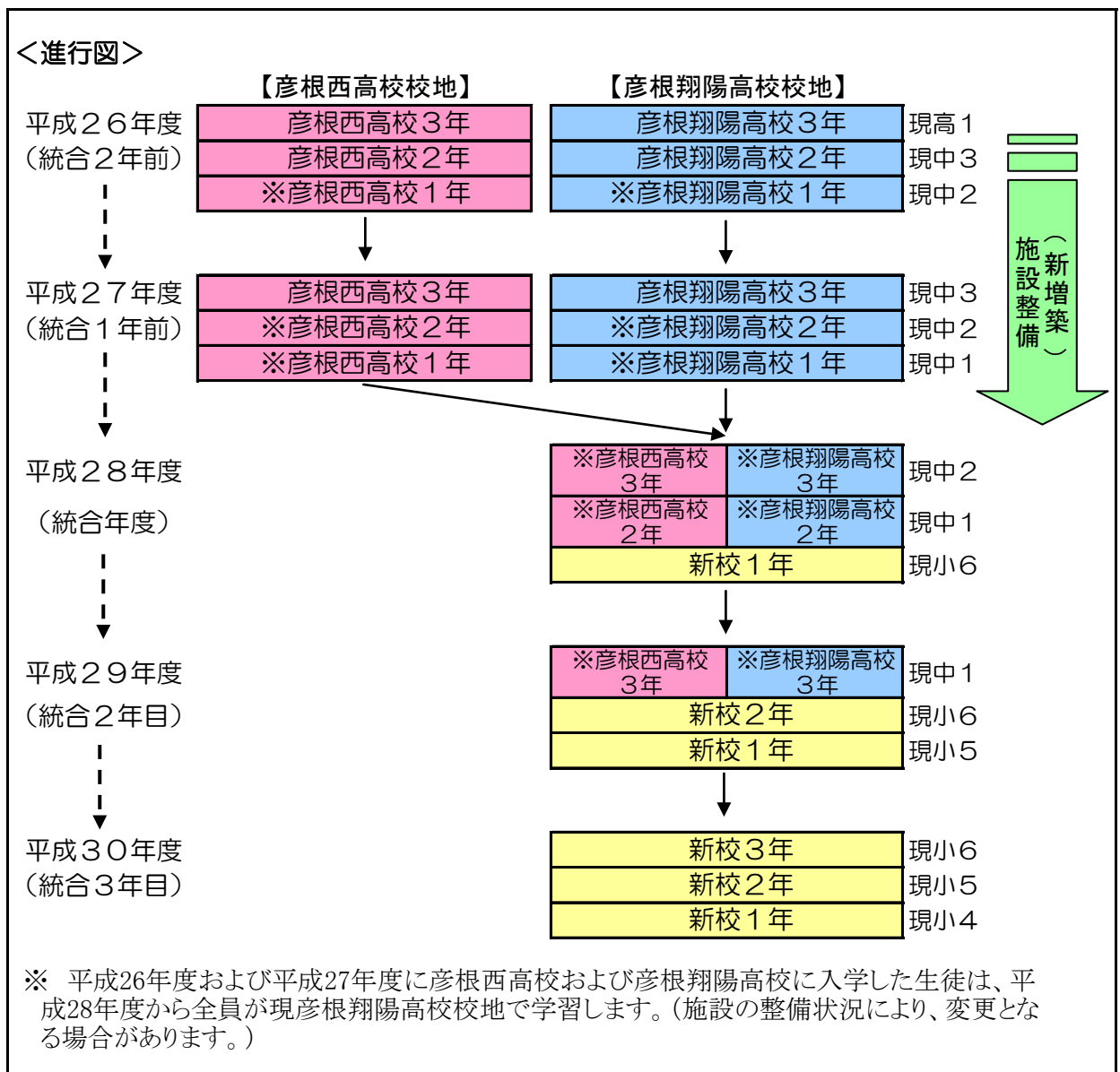
【彦根西高等学校と彦根翔陽高等学校の統合による新しい学校の設置】

(1) 再編の概要

再編の内容	彦根西高等学校（普通科・家庭学科）と彦根翔陽高等学校（総合学科）を統合し、普通・商業・家庭の系列で編成する総合学科高校を設置する。
再編のねらい	彦根翔陽高校の総合学科で展開してきた普通・商業の系列と彦根西高等学校で培ってきた普通科と家庭学科の教育資源を融合させ、普通・商業・家庭の系列で編成する総合学科高校を設置し、自己実現に向けて主体的な学習を促す多様な学びの充実を図るとともに、多様な生徒集団のもと、人間関係形成能力や社会性の育成を目指す教育を推進する。
設置場所	彦根翔陽高等学校校地
再編年度	平成 28 年度
想定する学校規模	1 学年 9 学級
学科構成	総合学科 普通・商業・家庭の系列を設置
教育活動の特色	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新校のコンセプト <ul style="list-style-type: none"> ・多様な学びのメニューの中から夢の実現を支援する学校 ・多様な生徒が集い、互いに切磋琢磨しながら夢を育み学ぶ学校 ○ 生徒の一人ひとりの個性を伸ばす系列と選択科目を設定し、主体的な学習を支援する。 ○ 生徒一人ひとりの進路に合わせた学習内容を提供し、きめ細かな学習指導でサポートする。 ○ 高大連携で自分の興味・関心のある分野の講義を経験することにより、より専門性の高い学びへの動機付けを図る。 ○ 設置系列 <ul style="list-style-type: none"> ・大学進学等にも対応した普通系列 ・ビジネスに関する専門知識の習得と資格取得を目指す商業系列 ・家庭科に関する専門知識や技能を身につけられる家庭系列 <p>以上の教育内容の特色を基本として、今後さらに検討を進める。</p>

(2) 統合の実施方法

- 平成 26 年度および平成 27 年度の入学者選抜において、彦根西高等学校と彦根翔陽高等学校に入学する生徒は、平成 28 年度から現彦根翔陽高等学校校地で全員が学習することを前提に募集します。（施設の整備状況により、変更となる場合があります。）
- 平成 28 年度入学者選抜より、彦根西高等学校と彦根翔陽高等学校の募集を停止し、新校の募集を開始します。
- 彦根西高等学校および彦根翔陽高等学校は、平成 27 年度入学生が卒業する平成 30 年 3 月まで存続します。



(3) 新校の開校に向けて

- 新校の開校に向けて準備・検討を行う新校開設準備室を教育委員会事務局に設置します。
検討にあたっては、両校の関係者等からなる(仮称)新校設置懇話会を設置し、教育理念や教育課程の編成、校名、校歌、校則などについて、意見を聴きながら進めます。
- 教室の増設や家庭系列に必要な設備などを新たに整備します。

(4) その他

- 平成27年度以前に彦根西高等学校および彦根翔陽高等学校に入学した生徒については、入学時に示された教育課程を履修することを保障します。
- 平成26年度の入学者選抜にかかる学校説明会までに、新校に設置する部活動を明らかにします。

【長浜高等学校と長浜北高等学校の統合による新しい学校の設置】

(1) 再編の概要

再編の内容	長浜高等学校（普通科・福祉学科）と長浜北高等学校（普通科）を統合し、普通科の単独新校を設置する。（福祉学科は廃止し、長浜北星高等学校総合学科に福祉系列を設置する。）
再編のねらい	<p>湖北地域の既存の普通科単独校と並び立つ中核的な普通科単独校を設置する。</p> <p>長浜市で展開されている英語教育の成果を高校教育につなげ、グローバル社会に生きる国際人を育成するための英語教育を展開する。</p>
設置場所	<p>長浜高等学校校地 （長浜高等養護学校は、長浜北星高等学校校地に新築移転）</p> <p>＜学校の配置＞</p>
再編年度	平成 28 年度
想定する学校規模	1 学年 8 学級
学科構成	普通科
教育活動の特色	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新校のコンセプト <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学等への進学指導に重点を置く地域の中核的な普通科単独校 ○ 基礎基本を徹底し、考える授業を展開する。 ○ 高等学校における新しい英語教育の全県のモデル校とし、英語教育を重視し、英語によるプレゼンテーション、コミュニケーション、ディスカッションなどによる言語能力を養成する。 ○ 湖北の小中学校における英語教育を引き継ぎ、その取組を活かした英語教育を展開する。 ○ 文武両道を重視する。 ○ 週 2 回の 7 時限授業を実施し、大学進学に必要な学力養成のための授業時間を確保する。 ○ 高大連携を通じて、大学の高度な教育・研究に触れ、発展的な学習の一端を経験することにより、学習への意欲、関心を喚起する。

	<p>○ 国公立大学受験を目指したカリキュラムを設定する。</p> <p>以上の教育内容の特色を基本として、今後さらに詳細な検討を進める。</p>
--	---

(2) 統合の実施方法

- 平成 26 年度および平成 27 年度の入学者選抜において、長浜高等学校と長浜北高等学校に入学する生徒は、平成 28 年度に現長浜北高等学校校地で全員が学習することを前提に募集します。
- 平成 28 年度入学者選抜より、長浜高等学校と長浜北高等学校の募集を停止するとともに、新校の募集を開始します。
- 平成 28 年度および平成 29 年度の入学者選抜において新校に入学する生徒は、平成 30 年度に現長浜高等学校校地で全員が学習する[※]ことを前提に募集します。
[※] 施設の整備状況により、変更となる場合があります。
- 長浜高等学校および長浜北高等学校は、平成 27 年度入学生が卒業する平成 30 年 3 月まで存続します。

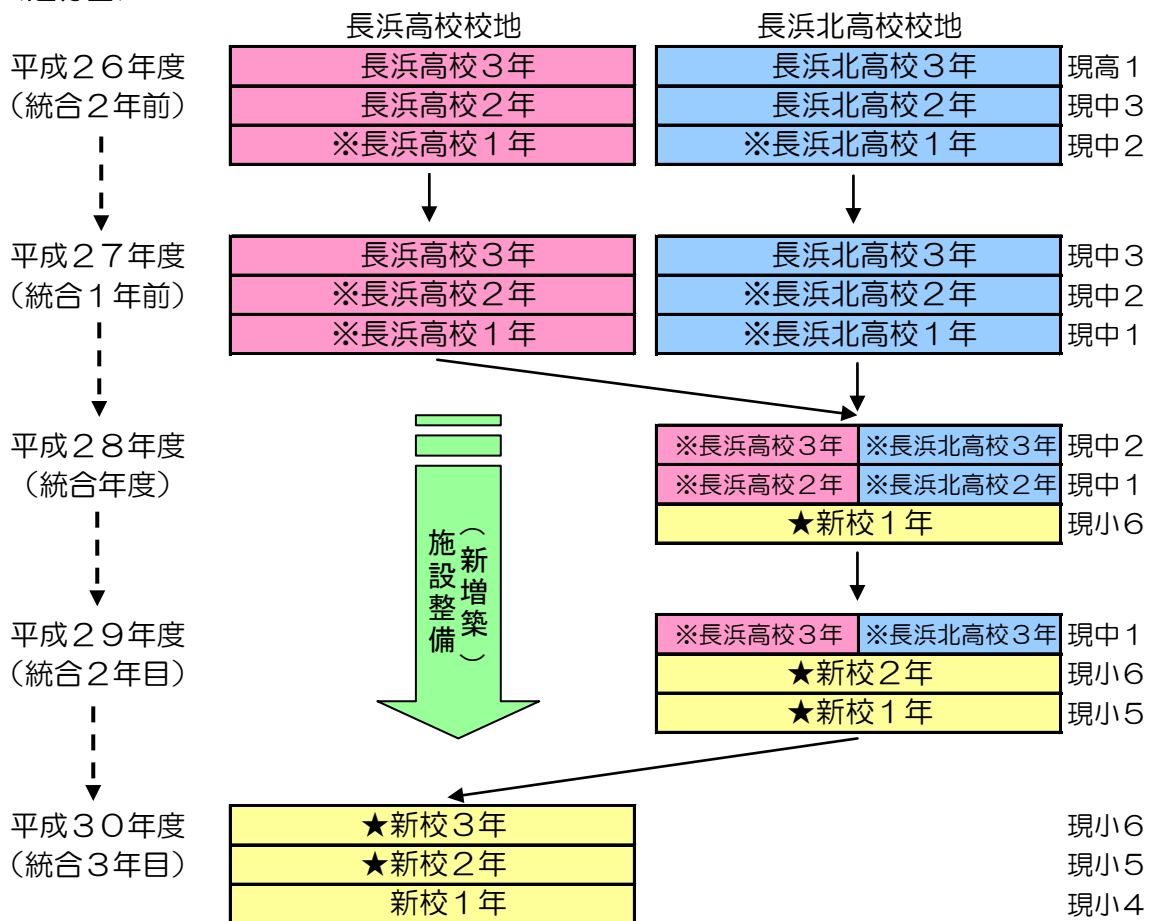
(3) 新校の開校に向けて

- 新校の開校に向けて準備・検討を行う新校開設準備室を教育委員会事務局に設置します。
 検討にあたっては、両校の関係者等からなる（仮称）新校設置懇話会を設置し、教育理念や教育課程の編成、校名、校歌、校則などについて、意見を聴きながら進めます。
- 平成 28 年度から平成 29 年度にかけて、現長浜高等学校校地に校舎を新增築します。

(4) その他

- 平成 27 年度以前に長浜高等学校および長浜北高等学校に入学した生徒については、入学時に示された教育課程を履修することを保障します。
- 平成 26 年度の入学者選抜にかかる学校説明会までに、新校に設置する部活動を明らかにします。
- 長浜高等学校と長浜北高等学校を合わせると、1 学年 10 学級（平成 24 年度第 1 学年）のところ、新校は 1 学年 8 学級を想定していますが、例えば虎姫高等学校等、同じ湖北地域の学校の学級増を行うなど、地域ごとの中学校卒業予定者数や進学志望の動向などを踏まえ、地域ごとの定員を確保していきます。

<進行図>



※ 平成26年度および平成27年度に長浜高校および長浜北高校に入学した生徒は、平成28年度から全員が現長浜北高校校地で学習します。

★ 平成28年度および平成29年度に新校に入学した生徒は、平成30年度から現長浜高校校地で学習します。(施設の整備状況により、変更となる場合があります。)

3 地域に根ざした学校づくり

【信楽高等学校を総合学科に改編】

(1) 再編の概要

再編の内容	<p>信楽高等学校（普通科、セラミック科、デザイン科）を普通・セラミック・デザインの3系列を持つ総合学科に改編する。</p> <p>また、セラミックやデザインの学習を特色として、県外から入学生を募集する仕組みを導入する。</p>
再編のねらい	<p>選択科目の設定の工夫により多様な学びを提供し、生徒の進路希望等に応じた教育を行う。</p> <p>地場産業関係者、地元陶芸家、大学、県機関、地域の有識者等の協力・連携によって、地場産業である信楽焼を中心とした地域の教育資源を活用した学習等を取り入れた魅力ある学習活動を展開し、学校活力の向上を図る。</p>
対象高等学校	信楽高等学校
再編年度	平成26年度
想定する学校規模	1学年 2学級
学科構成	総合学科 普通・セラミック・デザインの3系列を設置
教育活動の特色	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地場産業関係者、地元陶芸家、大学、県機関、地域の有識者等の協力・連携によって、様々な角度から甲賀や信楽の自然、歴史、文化、伝統産業等について幅広く学習する仮称「ふるさと学」に全校生徒が取り組み、豊かな人間性を育み、ふるさとへの愛着と誇りを持ち、将来は地域社会に貢献できる資質と能力を育成する。 ○ 総合学科の必修科目「産業社会と人間」において、産業社会における自己のあり方や生き方について考え、学習した後、自分の興味・関心や進路希望に応じた系列を選択し学習する。 ○ 学校行事や部活動等において、近隣校と連携した取組を行う。 <p>以上の教育内容の特色を基本として、今後さらに詳細な検討を進める。</p>

(2) 改編の実施方法

- 平成26年度入学者選抜より、普通科、セラミック科、デザイン科の募集を停止し、総合学科の募集を開始します。

(3) その他

- 平成25年度以前に入学した生徒については、入学時に示された教育課程を履修することを保障します。
- こうした改編を行った後、5年を目途に検証を行い、その評価を踏まえて必要な対応を検討します。

4 職業系専門学科の改編等

【農業学科の小学科改編】

(1) 再編の概要

再編の内容	農業学科の小学科の改編を行う。																
再編のねらい	農業学科の小学科を中学生から見て分かりやすい学科体系や名称に変更するとともに、地域の特色を生かしつつ、消費者や需要者のニーズにあった農業の展開、経営の多角化（6次産業化）、大規模経営などの学習内容の充実を通して、将来の本県農業の担い手としての資質と能力を育成する。																
対象高等学校	長浜農業高等学校、湖南農業高等学校、八日市南高等学校																
再編年度	平成26年度																
想定する学校規模	長浜農業高等学校 1学年 4学級 湖南農業高等学校 1学年 4学級 八日市南高等学校 1学年 3学級																
学科構成	<table border="0" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;"></th> <th style="width: 40%; text-align: center;">【改編前】</th> <th style="width: 20%;"></th> <th style="width: 40%; text-align: center;">【改編後】</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>長浜農業</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">生物活用科</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ガーデン科</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">食品科学科</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">環境デザイン科</div> </td> <td style="vertical-align: middle; text-align: center;">→</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">農業科</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">食品科</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">園芸科</div> </td> </tr> <tr> <td>湖南農業</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">農業技術科</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">園芸工学科</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">食品化学科</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">環境緑地科</div> </td> <td style="vertical-align: middle; text-align: center;">→</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">農業科</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">食品科</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">花緑科</div> </td> </tr> <tr> <td>八日市南</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">農業技術科</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">食品流通科</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">緑地デザイン科</div> </td> <td style="vertical-align: middle; text-align: center;">→</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">農業科</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">食品科</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">花緑デザイン科</div> </td> </tr> </tbody> </table>		【改編前】		【改編後】	長浜農業	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">生物活用科</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ガーデン科</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">食品科学科</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">環境デザイン科</div>	→	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">農業科</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">食品科</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">園芸科</div>	湖南農業	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">農業技術科</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">園芸工学科</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">食品化学科</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">環境緑地科</div>	→	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">農業科</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">食品科</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">花緑科</div>	八日市南	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">農業技術科</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">食品流通科</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">緑地デザイン科</div>	→	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">農業科</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">食品科</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">花緑デザイン科</div>
	【改編前】		【改編後】														
長浜農業	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">生物活用科</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ガーデン科</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">食品科学科</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">環境デザイン科</div>	→	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">農業科</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">食品科</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">園芸科</div>														
湖南農業	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">農業技術科</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">園芸工学科</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">食品化学科</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">環境緑地科</div>	→	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">農業科</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">食品科</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">花緑科</div>														
八日市南	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">農業技術科</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">食品流通科</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">緑地デザイン科</div>	→	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">農業科</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">食品科</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">花緑デザイン科</div>														
教育活動の特色	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域と連携し特産物の商品開発や農産物の加工販売など6次産業化に向けた取組を行なう。 ○ 長浜農業高等学校は、草花栽培やフラワーデザインなどの草花装飾技術、果樹や野菜生産について、広大な農場や施設設備を活用した園芸全般を学べる園芸科を設置するなど、教育内容の充実を図る。 ○ 湖南農業高等学校は、都市近郊型農業が行なわれている県南部の平野部に立地している条件を活かし、野菜や草花の生産・販売を中心とした都市近郊型農業を学べる農業高校として、教育内容の充実を図る。 ○ 八日市南高等学校は、地域の緑地帯設計などの取組実績のある造園分野に加え、新たに住居内外の空間デザインが学べる花緑デザイン科を設置するなど教育内容の充実を図る。 <p style="text-align: center;">以上の教育内容の特色を基本として、今後さらに詳細な検討を進める。</p>																

(2) 改編の実施方法

- 平成 26 年度入学者選抜より、改編後の小学科により生徒を募集します。

【工業学科の小学科改編】

(1) 再編の概要

再編の内容	工業学科の小学科改編および学校間での小学科の集約を行う。																																							
再編のねらい	<p>細分化された電気系と情報系の小学科を統合し、中学生から見て分かりやすい学科体系や名称に整理するとともに、知識や技能の高度化に対応できる基礎的・基本的な学力の確実な習得を図り、多様な工業分野で活躍できる資質と能力を育成する。</p> <p>また、特色ある学校づくりの推進や化学系小学科と建設系小学科を設置する学校の見直し等により、専門学科としての教育内容の充実を図る。</p>																																							
対象高等学校	瀬田工業高等学校、彦根工業高等学校、八幡工業高等学校																																							
再編年度	平成26年度																																							
想定する学校規模	瀬田工業高等学校 1学年 7学級 彦根工業高等学校 1学年 6学級 八幡工業高等学校 1学年 6学級																																							
学科構成	<table border="0" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>【改編前】</th> <th></th> <th>【改編後】</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>瀬田工業</td> <td> <table border="1" style="border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr><td>機械科</td></tr> <tr><td>電気科</td></tr> <tr><td>情報電子科</td></tr> <tr><td>化学工業科</td></tr> </table> </td> <td></td> <td> <table border="1" style="border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr><td>機械科</td></tr> <tr><td>電気科</td></tr> <tr><td>化学工業科</td></tr> </table> </td> </tr> <tr> <td>彦根工業</td> <td> <table border="1" style="border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr><td>機械科</td></tr> <tr><td>電気科</td></tr> <tr><td>情報技術科</td></tr> <tr><td>建設科</td></tr> <tr><td>環境化学科</td></tr> </table> </td> <td>➡</td> <td> <table border="1" style="border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr><td>機械科</td></tr> <tr><td>電気科</td></tr> <tr><td>建設科</td></tr> </table> </td> </tr> <tr> <td>八幡工業</td> <td> <table border="1" style="border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr><td>機械科</td></tr> <tr><td>電気科</td></tr> <tr><td>情報電子科</td></tr> <tr><td>建築科</td></tr> <tr><td>環境化学科</td></tr> </table> </td> <td></td> <td> <table border="1" style="border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr><td>機械科</td></tr> <tr><td>電気科</td></tr> <tr><td>環境化学科</td></tr> </table> </td> </tr> </tbody> </table>		【改編前】		【改編後】	瀬田工業	<table border="1" style="border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr><td>機械科</td></tr> <tr><td>電気科</td></tr> <tr><td>情報電子科</td></tr> <tr><td>化学工業科</td></tr> </table>	機械科	電気科	情報電子科	化学工業科		<table border="1" style="border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr><td>機械科</td></tr> <tr><td>電気科</td></tr> <tr><td>化学工業科</td></tr> </table>	機械科	電気科	化学工業科	彦根工業	<table border="1" style="border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr><td>機械科</td></tr> <tr><td>電気科</td></tr> <tr><td>情報技術科</td></tr> <tr><td>建設科</td></tr> <tr><td>環境化学科</td></tr> </table>	機械科	電気科	情報技術科	建設科	環境化学科	➡	<table border="1" style="border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr><td>機械科</td></tr> <tr><td>電気科</td></tr> <tr><td>建設科</td></tr> </table>	機械科	電気科	建設科	八幡工業	<table border="1" style="border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr><td>機械科</td></tr> <tr><td>電気科</td></tr> <tr><td>情報電子科</td></tr> <tr><td>建築科</td></tr> <tr><td>環境化学科</td></tr> </table>	機械科	電気科	情報電子科	建築科	環境化学科		<table border="1" style="border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr><td>機械科</td></tr> <tr><td>電気科</td></tr> <tr><td>環境化学科</td></tr> </table>	機械科	電気科	環境化学科
	【改編前】		【改編後】																																					
瀬田工業	<table border="1" style="border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr><td>機械科</td></tr> <tr><td>電気科</td></tr> <tr><td>情報電子科</td></tr> <tr><td>化学工業科</td></tr> </table>	機械科	電気科	情報電子科	化学工業科		<table border="1" style="border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr><td>機械科</td></tr> <tr><td>電気科</td></tr> <tr><td>化学工業科</td></tr> </table>	機械科	電気科	化学工業科																														
機械科																																								
電気科																																								
情報電子科																																								
化学工業科																																								
機械科																																								
電気科																																								
化学工業科																																								
彦根工業	<table border="1" style="border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr><td>機械科</td></tr> <tr><td>電気科</td></tr> <tr><td>情報技術科</td></tr> <tr><td>建設科</td></tr> <tr><td>環境化学科</td></tr> </table>	機械科	電気科	情報技術科	建設科	環境化学科	➡	<table border="1" style="border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr><td>機械科</td></tr> <tr><td>電気科</td></tr> <tr><td>建設科</td></tr> </table>	機械科	電気科	建設科																													
機械科																																								
電気科																																								
情報技術科																																								
建設科																																								
環境化学科																																								
機械科																																								
電気科																																								
建設科																																								
八幡工業	<table border="1" style="border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr><td>機械科</td></tr> <tr><td>電気科</td></tr> <tr><td>情報電子科</td></tr> <tr><td>建築科</td></tr> <tr><td>環境化学科</td></tr> </table>	機械科	電気科	情報電子科	建築科	環境化学科		<table border="1" style="border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr><td>機械科</td></tr> <tr><td>電気科</td></tr> <tr><td>環境化学科</td></tr> </table>	機械科	電気科	環境化学科																													
機械科																																								
電気科																																								
情報電子科																																								
建築科																																								
環境化学科																																								
機械科																																								
電気科																																								
環境化学科																																								
教育活動の特色	<ul style="list-style-type: none"> ○ 情報系小学科と電気系小学科を統合した「電気科（仮称）」を設置し、電気や情報に関する基本的な知識と技能を身につける指導を行う。また、入学後に授業・実習を経験した後に、自分の興味・関心や進路希望等に応じた専門科目を選択することが可能な教育課程を編成する。 ○ 機械科、電気科をベースに、瀬田工業高等学校は化学工業科、彦根工業高等学校は建設科、八幡工業高等学校は環境化学科を有する工業高校として特色ある学校づくりを進める。 ○ 瀬田工業高等学校は電気自動車製作、彦根工業高等学校は「防災かまどベンチ」製作、八幡工業高等学校は「環境のための地球規模の学習及び観測プログラム（グローブ）推進事業」など、各校の特色ある取組を進めるとともに、その成果を積極的に地域に発信する。 																																							

	<p>○ 建設科および環境化学科を彦根工業高等学校と八幡工業高等学校間で集約し、既存の施設・設備の効果的な活用や集中投資を視野に入れ専門教育の充実を目指す。</p> <p>以上の教育内容の特色を基本として、今後さらに詳細な検討を進める。</p>
--	--

(2) 改編の実施方法

- 平成 26 年度入学者選抜より、改編後の小学科により生徒を募集します。

【瀬田工業高等学校と瀬田高等学校の統合】

(1) 再編の概要

再編の内容	同一敷地内に設置されている瀬田工業高等学校（全日制課程）と瀬田高等学校（定時制課程）を統合する。 併せて、定時制課程の機械科および電気科を生徒の志望の実態に応じ、機械・電気科とする。
再編のねらい	全日制・定時制を併置した工業学科として、両校が持つノウハウの蓄積や施設・設備を有効に活用し、専門学科としての教育内容の充実を図る。
設置場所	—
再編年度	平成 26 年度
想定する学校規模	1 学年 全日制課程 7 学級、定時制課程（夜間） 1 学級
学科構成	全日制課程 機械科、電気科、化学工業科 定時制課程 機械・電気科
教育活動の特色	<ul style="list-style-type: none"> ○ 瀬田工業高等学校と瀬田高等学校で培ってきた学習指導や進路指導等のノウハウを共有し、効果的な学習活動を展開する。 ○ 施設・設備を有効に活用し、専門学科としての教育内容の充実を図る。 ○ 定時制課程の機械・電気科では、機械と電気のどちらかの類型を選んで学習する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 機械類型では、機械全般に関する基礎的知識や技能を学び、専門的な授業や実習を通して、機械加工技術の習得を目指す。 ・ 電気類型では、電気全般に関する基礎的知識や技能を学び、専門的な授業や実習を通して、電気施工管理技術の習得を目指す。 <p>以上の教育内容の特色を基本として、今後さらに詳細な検討を進める。</p>

(2) 学校統合の実施方法

- 平成 26 年度入学者選抜より、瀬田高等学校（機械科、電気科）の募集を停止し、瀬田工業高等学校定時制課程（機械・電気科）の募集を開始します。
- 瀬田高等学校は、平成 25 年度入学生が卒業する平成 29 年 3 月末まで存続します。

(3) その他

- 平成 25 年度以前に瀬田工業高等学校および瀬田高等学校に入学した生徒については、入学時に示された教育課程を履修することを保障します。

5 総合学科の充実

【長浜北星高等学校総合学科に福祉系列を設置】

【長浜高等学校福祉学科の廃止】

(1) 再編の概要

再編の内容	長浜北星高等学校に新たに福祉系列を設置し、普通・工業・商業・福祉の系列で編成する総合学科とするとともに、長浜高等学校の福祉学科を廃止する。
再編のねらい	<p>介護福祉士の国家試験合格を目指すことを重視してきた福祉科教育のあり方を見直し、基礎的・基本的な学習に重点を置き、生徒の進路希望等に応じて上級学校へ進学し、さらに福祉に関する学習を深めることができる形に改める。</p> <p>併せて、総合学科の柔軟な教育課程の中に福祉に関する専門教育を取り込み、生徒の多様なニーズに対応した学習の機会を確保するため、福祉学科を総合学科の系列に改編する。</p> <p>長浜北星高等学校は、普通・工業・商業・福祉の多様な学びの系列で編成する総合学科高校として、教育内容の充実を図る。</p>
対象高等学校	<p>長浜北星高等学校（工業・商業・福祉実習棟を新築）</p> <p>※ 長浜高等養護学校を併設（駅からの利便性が向上、校舎を新築するなど教育環境を改善）</p>
再編年度	平成 26 年度
想定する学校規模	1 学年 6 学級
学科構成	総合学科 普通・工業・商業・福祉の系列を設置
教育活動の特色	<p>○ 普通・工業・商業・福祉で編成する多様な系列から、自分の興味・関心や進路希望に応じた系列を選択し学習する。</p> <p>○ 新たに設置する福祉系列では、福祉に関する基礎的・基本的な学習を通して、将来、福祉や看護、医療分野などで地域に貢献できる資質と能力を育成する。</p> <p>なお、生徒の進路希望に応じて上級学校への進学や介護福祉士の受験資格取得を目指す生徒にも対応できる教育課程を設定する。</p> <p>以上の教育内容の特色を基本として、今後さらに詳細な検討を進める。</p>

(2) 改編の実施方法

- 平成 26 年度入学者選抜より、長浜高等学校福祉学科の募集を停止します。
- 平成 26 年度に長浜北星高等学校総合学科に入学した生徒から、福祉系列の選択が可能となります。

6 定時制課程の見直し

【長浜北星高等学校定時制課程の学科改編】

(1) 再編の概要

再編の内容	長浜北星高等学校の定時制課程を学年制の商業学科から単位制の総合学科へ改編する。
再編のねらい	普通、商業の系列で編成する総合学科へ改編することにより、転編入学や3年での卒業を容易にするなど、生徒の多様な学習ニーズに対応した教育を推進する。
対象高等学校	長浜北星高等学校 定時制課程
再編年度	平成26年度
想定する学校規模	長浜北星高等学校 定時制課程（夜間）1学年 1学級
学科構成	長浜北星高等学校 総合学科 普通・商業の系列を設置
教育活動の特色	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒一人ひとりが自分の興味・関心や進路希望等に基づき、主体的に科目を選択履修する。 ○ 少人数編成授業を行うなど、生徒の興味・関心や習熟の程度等にきめ細かく対応した授業を展開する。 ○ 総合学科の必修科目「産業社会と人間」において、産業社会における自己のあり方や生き方について考え、社会に積極的に寄与し、生涯にわたって学習に取り組む意欲や態度を養う。 ○ 生徒が主体的に履修科目を選択できるよう、ガイダンス機能を充実し、計画的・組織的にきめ細かな指導を行う。 ○ 0時限や5時限授業の設定、実務代替、定通併修、技能審査等の単位認定制度を活用することで、3年での卒業を可能とする。 <ul style="list-style-type: none"> ※ 実務代替：一定の条件のもとに、働いている場所での実務を職業科目の一部とする制度 ※ 技能審査：簿記検定、実用英語技能検定、日本漢字能力検定など、一定の要件を満たす知識や技能の審査 <p>以上を基本として、今後さらに詳細な検討を進める。</p>

(2) 改編の実施方法

- 平成26年度入学者選抜より、長浜北星高等学校定時制課程商業学科の募集を停止し、総合学科の募集を開始します。

(3) その他

- 平成25年度以前に長浜北星高等学校定時制課程に入学した生徒については、入学時に示された教育課程を履修することを保障します。

【彦根東高等学校定時制課程の廃止】

(1) 再編の概要

再 編 の 内 容	普通科の総合単位制高等学校を湖東地域に設置することに伴い、彦根東高等学校の定時制課程（普通科）を廃止する。
対 象 高 等 学 校	彦根東高等学校 定時制課程
再 編 年 度	平成 26 年度

(2) 再編の実施方法

- 平成 26 年度入学者選抜より、彦根東高等学校定時制課程の募集を停止します。
- 彦根東高等学校の定時制課程は、平成 25 年度入学生が卒業する平成 29 年 3 月まで存続します。

(3) その他

- 平成 25 年度以前に彦根東高等学校定時制課程に入学した生徒については、入学時に示された教育課程を履修することを保障します。

※ 改編後の学科等は仮称です。